

第7章 コミュニティ開発計画および策定プロセス

コミュニティ開発計画策定にあたっては、PPを通じて得た開発計画の内容、実施体制を反映させたものとする。図7.1にコミュニティ開発計画の策定までのフローを示す。

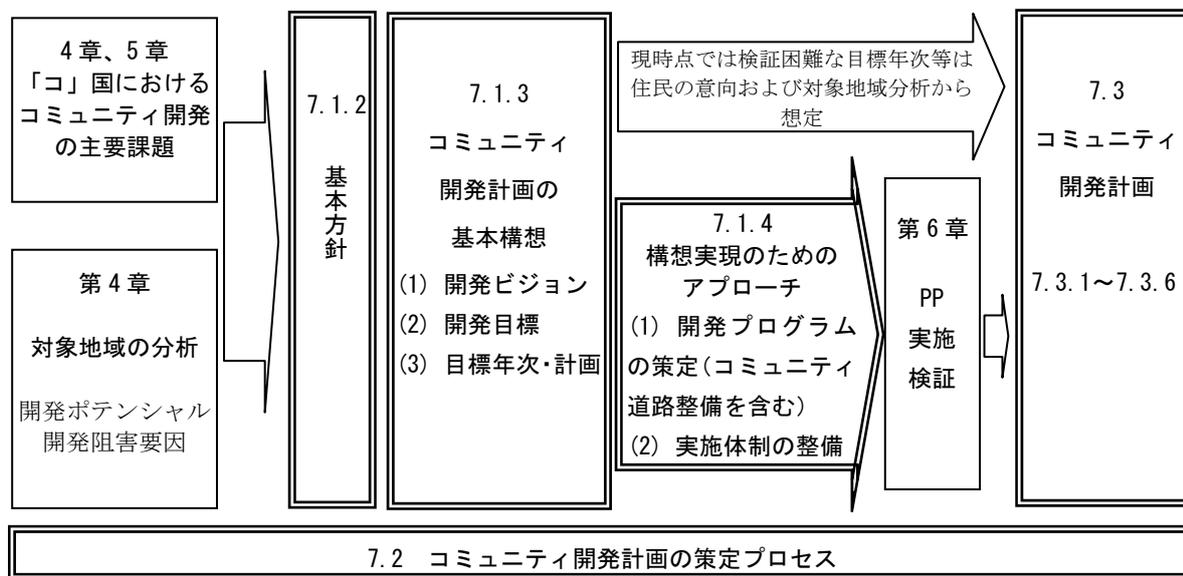


図7.1 コミュニティ開発計画の策定までのフロー

また、コミュニティ開発計画の策定は、次ページ図7.2の計画策定の実施手順に沿って実施した。詳細は7.2に記述する。

7.1 コミュニティ開発計画の構想とアプローチの設定

7.1.1 コミュニティ開発計画の構想の概要

本調査地域におけるコミュニティ開発計画の概要を以下に示す。詳細は本章で後述する。

- (a) 対象地域：Kimpese セクター内の、Kilueka ルートおよび Nkondo ルート沿いの 21 集落
- (b) 対象期間：2010 年から 2014 年（本調査期間を含む）
- (c) ターゲットグループ：対象地域住民、州内の DECO・DVDA 職員
- (d) 開発ビジョン：持続的にベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）が満たされる地域となる。
- (e) 目標計画年：短期計画 3 年、中期計画 5 年
- (f) 開発目標：①開発目標 BHN を満たすだけの最低限の収入を確保する、②生活環境が改善し、コミュニティでの生活に満足する、③公共サービスが充実する
- (g) 開発目標実現のためのプログラム：
 - ①コミュニティ道路改修（本調査では緊急復興事業として実施）、②住民組織支援・強化、③農業生産性向上、④生産物付加価値向上、⑤収入源多角化、⑥自然環境改善、⑦生活環境改善、⑧公共施設整備

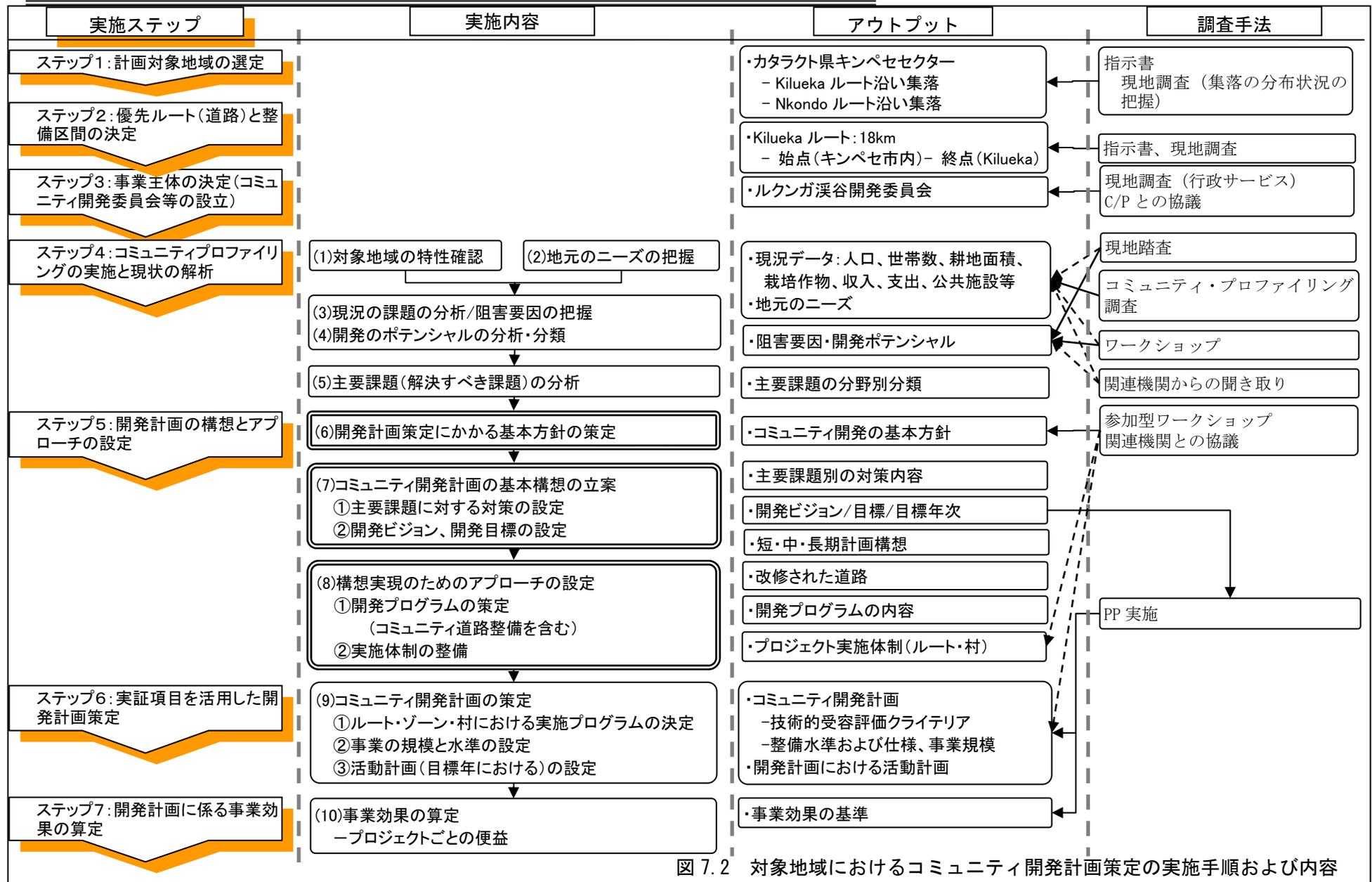


図 7.2 対象地域におけるコミュニティ開発計画策定の実施手順および内容

7.1.2 コミュニティ開発計画の基本方針の策定

コミュニティ開発計画策定における方針は、「コ」国政府の政策ならびに調査対象地域が有する開発ポテンシャルおよび阻害要因の分析結果に基づいて次のように設定した。

基本方針1：2008年12月に発行された「コンゴ民主共和国におけるコミュニティ開発政策および戦略書」(以下、コミュニティ開発戦略書と記述)を上位戦略として認識し、これに記載されている内容と整合したものを立案する。

基本方針2：住民組織による維持管理によって持続可能な計画となるよう、住民の意向を踏まえたものとする。

基本方針3：本調査の命題である平和構築に資するコミュニティ開発は、計画の策定ならびに実施により、新たなコンフリクトが発生することがないように計画策定プロセスに配慮する。(PNA実施、詳細は第9章参照)

基本方針4：緊急復興事業として改修する農村道路の維持管理を実施する住民組織の活動を通して、旧アンゴラ難民キャンプサイトに定住した住民を含む地域コミュニティの連帯を強化することにより、地域の安定に寄与するもの(キンペセモデル)として計画を策定する。

基本方針1の背景であるが、「コ」国におけるコミュニティ開発のコンセプトは、国民の参加の下、国民の生活水準向上を目的とする活動の実施、およびこれに関わる戦略の策定である。同国のコミュニティ開発の歴史は1930年台初頭に遡り、農業生産性向上のための土地開拓制度の一環として始まり、その目標を次の6つに設定している。すなわち、(1)肥培管理による土壌の生産性の増大、(2)農民の健全で持続的な生計の確保、(3)農民の多様で豊かな食生活の確保、(4)大型家畜の導入、養殖、漁業の振興、(5)農民協同組合の設置促進、(6)農作業の機械化の促進である。

「コ」国におけるコミュニティ開発が本格的に活動を開始するのは第2次世界大戦の終結後であった。この時代、キリスト教ミッション系の非営利組織により、学校、職業訓練所、医療組織等の施設が活動を開始するとともに、植民を通じて設立された民間企業による社会的・文化的事業の中に取り込まれ、これらの活動は独立後も継続されている。

「コ」国は1960年にベルギーから独立するが、その後も政治的な混乱や開発協議、90年代の紛争の激化を経る中で、コミュニティ開発分野における有効な政策が執られず、地方のコミュニティは疲弊し、貧困に直面している。その後、農村開発省の創設とともに制度上、組織上の体制が整うものの、残念ながら地方のコミュニティの状況に有意な改善は認められない。

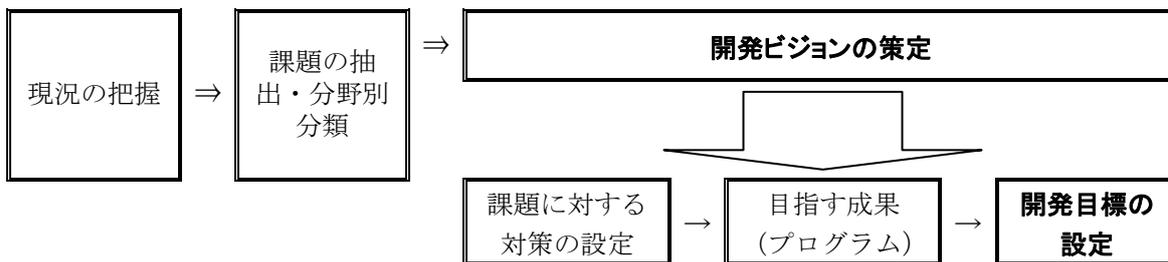
また、現在の「コ」国のコミュニティ開発において想定される主要課題は、(1)貧困削減、(2)地方における開発問題への配慮、(3)国と地方行政組織の協調(パートナーシップ)、(4)開発プロジェクトの選定、実施、モニタリングに対する住民参加、(5)新しい事業の創造意欲を有し、

高いリスクに果敢に挑む起業家精神の醸成、(6) 地方におけるリーダーの育成、(7) 農村住環境の改善、(8) 水、電気、教育、保健など、基礎的社会基盤へのアクセスの改善、(9) 基礎的コミュニティの整備・強化、(10) 組合・団体の組織化および登録規定のための規制緩和、(11) 中央、州、県以下の地方行政レベル間における連携強化のための枠組み強化、(12) 人と財の安全および地方の実質的平和構築、(13) 地方行政における不正防止、(14) 社会的弱者の能力強化、(15) コミュニティ開発支援の制度的枠組みの強化、(16) コミュニティ活力増強に対する研究センターおよび大学の関与、(17) コミュニティ・ラジオ放送局の設置と強化、(18) 環境保全・保護政策の策定におけるコミュニティの意向の反映である。

7.1.3 コミュニティ開発計画の基本構想の立案

5章で既述のとおり、現地調査から得られる対象地域の課題は、大きく「生計向上」、「生活・自然環境」、「公共施設」および「コミュニティ道路」と分類される。ここから、以下のフローのとおり、挙げられた課題から対策を策定し、対策が目指す成果（プログラム）、各分野における達成すべき開発目標を設定した。短・中期目標年の5年後を目処に、開発目標が満たされたことで得られるコミュニティが目指すべき姿（開発ビジョン）を現況調査やC/Pとの話し合いの下に決定した。また、フローにしたがって得られた内容は、次頁図に示すとおりである。

各分野における対策にかかる成果(プログラム)と開発目標設定のフロー図



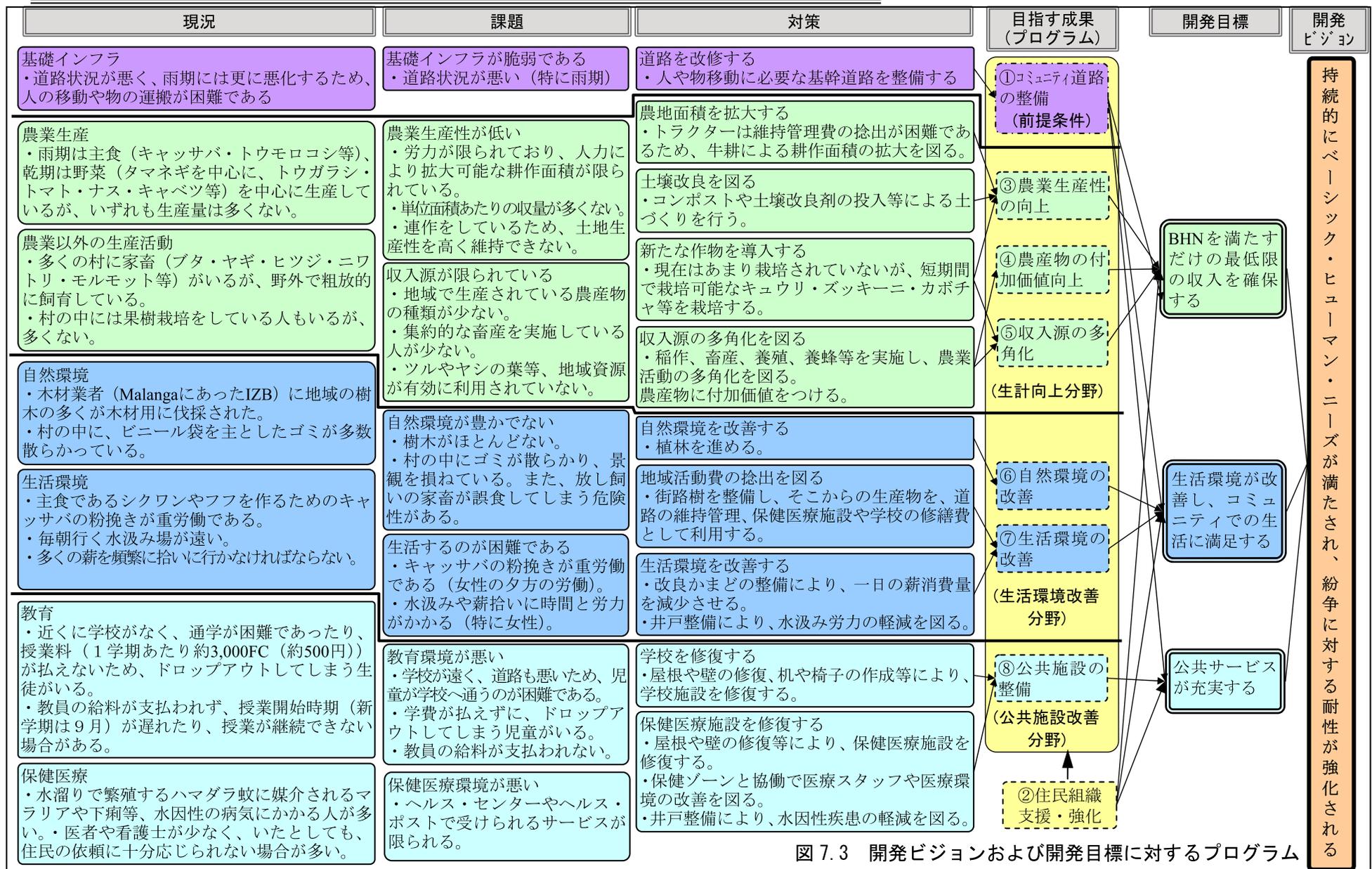


図 7.3 開発ビジョンおよび開発目標に対するプログラム

(1) 開発ビジョン

開発ビジョン：持続的にベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）が満たされ、紛争に対する耐性が強化される

現況調査の結果から、対象コミュニティである Kimpese セクター内の Kilueka ルートおよび Nkondo ルート沿いの 21 の集落の住民の大多数は、農業に従事しているものの生産性は低く、1人当たりの収入は、1.0 ドル/日に満たない。また、安全な飲料水へのアクセスが困難で、保健や学校施設が劣悪な状況にあるなど、生活の質が最低のレベルである。この環境で、対象地域に紛争等が起こった場合、生活が困難になる状況である。

このような住民の生活を改善するためには、生計の向上、生活環境および公共施設の改善を一体的に整備する必要がある。そこで、短・中期的に、本プロジェクトが継続され、課題が改善された当該地区が到達すべき将来像として、「持続的に BHN が満たされ、紛争に対する耐性が強化される」ことを開発ビジョンとして掲げる。

生活する上で必要な、収入、生活・自然環境、医療・教育施設へのアクセスが持続的に確保されることが重要であり、そのためにも、活動の運営維持管理の主体となる住民組織が維持され、組織能力の向上に伴い住民主導のコミュニティ開発が進むことが重要である。

(2) 各分野における対策の設定と開発目標

各分野における開発目標は、以下の経緯で設定した。

(a) 開発目標 1 (生計向上分野)：BHN を満たすだけの最低限の収入を確保する

目標指標：平均収入を 2 割向上させる。

「生計向上」分野での課題は、本調査対象地域の 1 人 1 日あたりの平均収入は、雨期が 0.76\$ で乾期が 0.93\$ であり、1 日 1 ドル以下で生活している人々が数多くいることである。住民とのワークショップでも、農業生産性の向上に関する課題が第 1 に挙げられた。

対象地域は、降雨や気温などの自然環境に恵まれ、雨期に穀類、乾期に野菜を栽培しているが、全ての農作業を人力に頼っており、肥沃な土地の未利用、適切な栽培技術の未普及、畜産においても粗放的な飼養方法をとっている。これらのことが、労働生産性を極めて低い水準に留める原因となっている。そこで、対策としては収入のほとんどを農業に依存している当対象地域では、①農業生産性の向上の必要性が挙げられる。また、収入を増加させる手段として、②畜産、養殖など収入を得る手段の多様化、または、③今栽培している作物の付加価値を高めることが挙げられる。

これらの活動の成果の目標（開発目標）としては、「BHN を満たすだけの最低限の収入を確保すること」を挙げる。この目標の達成を計る指標は、21 の村の 1 日あたりの平均収入が 0.76 ドルであることから、平均 1 ドル/日を目指し、「平均収入を 2 割向上させる」こととする。

(b) 開発目標 2 (生活環境改善分野) : 生活環境が改善し、コミュニティでの生活に満足する

目標指標 : 全ての住民が飲料水へのアクセスが可能となる。

自然環境に関する保全意識が向上し、無秩序な火入れが無くなる。

「生活環境改善」分野での課題は、生活環境は、安全な飲料水へのアクセスの不備、キャッサバの製粉作業や水汲みなど主に女性が行っている作業が重労働であることが挙げられ、これらの「生活環境の改善」が必要となる。また、改善の効果の発現のために、日常的に数人が集まってコミュニケーションをしながら作業する機会を増やすことで、女性の活動を活性化させることも考える。対象地域の自然環境は、村周辺での火入れにより樹木のみならず畑地も被害を受けており、これらの「自然環境の改善」が必要である。例えば、残された森林の保全と積極的な植林、火入れの制限の実施が挙げられる。

これらの活動の成果の目標（開発目標）としては、「自然・生活環境が改善し、コミュニティでの生活に満足する」ことを挙げる。この達成を計る指標として、給水環境と、周辺の森林環境に注目し、「全ての住民が飲料水へのアクセス可能となる」、「自然環境に関する保全意識が向上し、無秩序な火入れが無くなる」こととする。

(c) 開発目標 3 (公共施設改善分野) : 公共サービスが充実し、継続して住民が便益に与る

目標指標 : 教員が定着し、継続的に教育が実施される。

看護師が定着し、継続的に医療サービスを受けられる。予防に関する知識を〇〇%の住民が理解する。

「公共施設改善」分野では、対象地域の学校は、屋根や壁、床等の施設の状態が悪く、維持管理が充分に行われておらず、診療所や道路等の他の公共施設の状態も不良であるため、地域の学校教育、医療環境の悪化の一因となっている。周辺住民からも整備・改修の要望が非常に高く、対策としては、ここで挙げた「公共施設の改善」が必要となる。

これらの活動の成果の目標（開発目標）としては、「公共サービスが充実し、継続してこれらの便益に与る」ことを挙げる。この達成を計る指標としては、地域の発展にまず重要である教育施設と保健医療施設に着目し、「教員が定着し、教育が継続的に実施される。」、「看護師が定着し、継続的に医療サービスを受けられる。」こととする。

(3) 計画（短・中期）の策定

「コ」国のように国情が不安定で、今後大きな変化が予想される状況下で、長期間にわたる計画目標年次を想定することは困難である。このため、本計画の目標年は、5年後の2014年に設定し、5年を短期、中期に分ける。

短期計画の計画期間は、2010年から2012年の3年間とし、プログラムの内容が継続的に実施され、住民主導型コミュニティ開発を行うための基盤作りの期間として位置付ける。さらに、C/P

の能力向上やコミュニティ開発計画のモデル（キンペセモデル）化も盛り込む。

中期計画の期間は、2013年から2014年の2年間とし、短期計画の中でトレーニングを受けた行政組織やNGOの技術者により、短期計画期間中に構築されたモデルの改善を行い、プログラムがさらに、対象地域内外に水平方向に波及する期間とする。

開発計画は、生計向上や村内の環境改善はその活動主体および活動範囲が村内あることから、村レベルで、複数村で利用される保健施設などの公共施設については、複数の村レベル（ゾーンレベル）で作成する。道路の維持管理のようにルート沿線の村が裨益するようなものについては、ルートレベルで作成する。

7.1.4 構想実現のためのアプローチ

上述の開発目標1から3を実現した上で開発ビジョンを達成するためには、下表に示すように生計向上、生活環境改善および公共施設改善の3つの分野に係るプログラムとともに、コミュニティ道路整備および住民組織支援・強化からなる必須分野を実行することが必要である。

開発目標とプログラム

開発目標1	生計向上分野のプログラム	必須分野のプログラム
開発目標2	生活環境改善分野のプログラム	
開発目標3	公共施設改善分野のプログラム	

特に、生計向上および公共施設改善は、それぞれコミュニティ道路が整備されることによって農産物の流通、および公共施設へのアクセスの改善が図られ、効果の発現が促進される。すなわち、コミュニティ道路の整備は、生計向上、公共施設改善を行う上で、第一義的に実施するものとなる。

必須分野以外の開発プログラムは、住民が主体で持続的に実施できることが重要である。開発プログラムの実施主体となるコミュニティ開発委員会や住民組織を設立し、設立された組織によるプログラムの運営維持管理が、行政職員の指導・支援を受けて行われる実施体制の構築を図る必要がある。そのためには、対象村や行政職員の能力強化も必要不可欠である。

開発ビジョンである「持続的にベーシック・ヒューマン・ニーズが満たされる地域となる」を達成するために行政職員に対しては、本プロジェクトの活動を通じて開発プログラムに関する能力向上を図ることも必要である。図7.4に開発ビジョン、目標と各分野別プログラムの関係を示す。

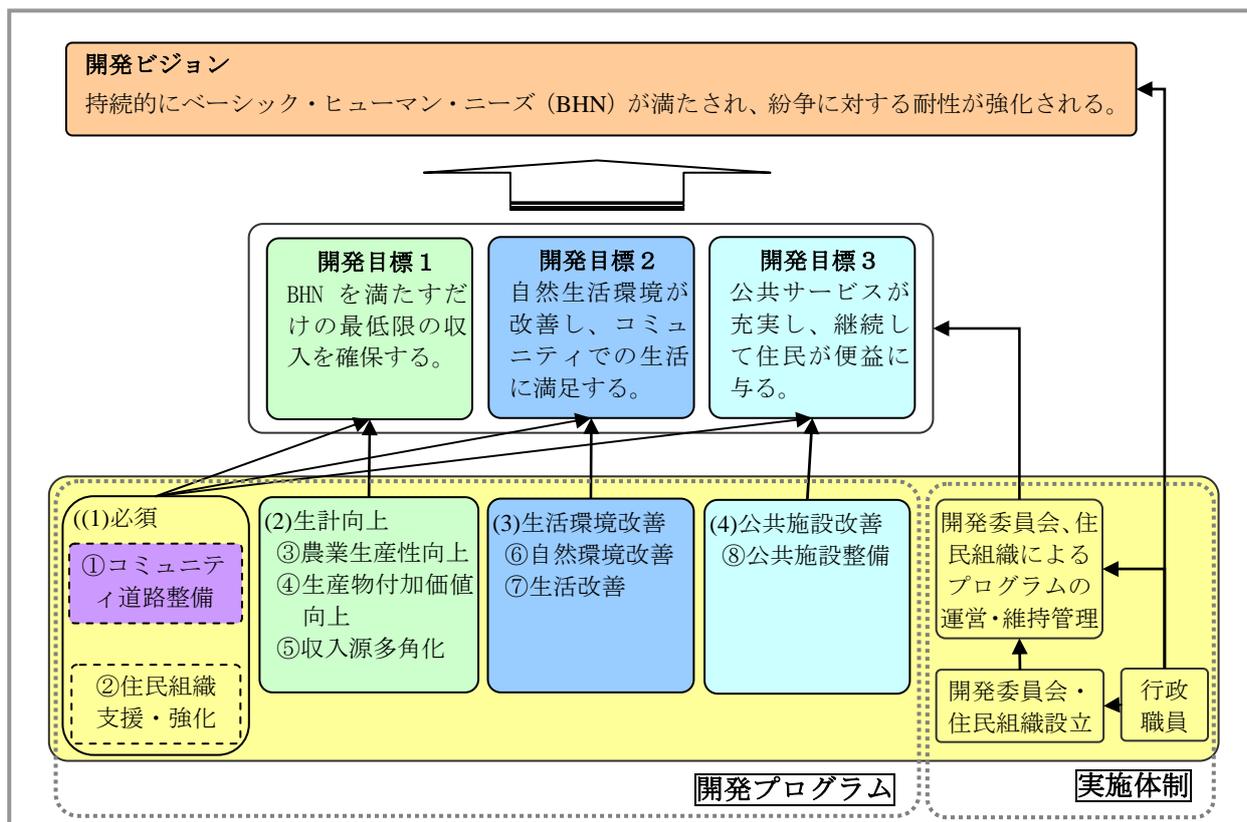


図 7.4 構想実現のためのアプローチ

(1) 開発プログラムの策定

対象地域のコミュニティ開発計画の内容は、図 7.4 に示すように開発目標を達成するために 4 分野（必須、生計向上、生活環境改善、公共施設改善）、8 プログラム（コミュニティ道路整備、農業生産性向上、生産物付加価値向上、収入源多角化、生活環境改善、自然環境改善、公共施設整備、住民組織支援・強化）に分類される。これらの各々のプログラムの下に、実際に実施されるプロジェクトが存在する。下表に分野ごとのプロジェクトとプログラムを示す。

表 7.1 分野ごとのプログラムとプロジェクト

分野	プログラム	プロジェクト
(1) 必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化
(2) 生計向上	③農業生産性向上	牛耕
		野菜栽培
		稲作振興
	④生産物付加価値向上	収穫後処理・農産加工
		共同集出荷
		生産物運搬
⑤収入源多角化	畜産	
	養蜂	
	養殖・水産加工	
(3) 生活環境改善	⑥自然環境改善	植林
		改良かまど
	⑦生活環境改善	識字教育

分野	プログラム	プロジェクト
		手工芸
		給水施設・維持管理
(4) 公共施設改善	⑧ 公共施設整備	保健医療環境改善
		教育施設環境改善

コミュニティの生活を改善するためには、プログラムを総合的、段階的に実施することが重要である。生計向上、生活環境改善および公共施設改善を持続的に実施するためには住民組織支援・強化が重要である。また、これらのプログラムによって、効果的にコミュニティ住民の生計向上および生活環境を改善するためには、コミュニティ道路の整備が不可欠である。各プログラムで実施するプロジェクトの詳細は Annex 6.10 パイロット・プロジェクトシートによる。以下に各プログラムの詳細を記述する。

1) 必須分野

① コミュニティ道路整備プログラム

コミュニティ道路は、生産物の運搬や日用品の購入など、生計向上および生活環境改善に直接的に影響を与える。したがって、生計向上および生活環境改善のためには、道路整備はコミュニティ開発において、第一義的に検討・実施すべきである。

- ・ コミュニティ道路整備プロジェクト：道路整備は、一般的には開発のポテンシャルが高い地域に沿った既存農道の改修を人力のみで実施する手法(HIMO)、地元建設会社による機械施行と一部地元住民の人力施行を組み合わせた手法で改修するものの2種類挙げられる。本調査では、緊急復興事業として、後者の方法において道路の改修整備が実施された。

② 住民組織支援・強化プログラム

コミュニティ道路整備や生計向上などのプログラム実施に当たっては、住民を主体とした実施体制を構築し、ここで構築された住民組織によるプログラムの実施、モニタリングおよびモニタリング結果のプログラムへの反映が、持続的な開発を行う上で重要である。「(2)実施体制」で後述するルート沿いの複数のコミュニティ代表によって結成されるコミュニティ開発委員会は、対象地域の開発プログラムを進める上で重要な組織となる。このプログラムの内容は以下のとおりである。

- ・ 住民組織支援・強化プロジェクト：コミュニティ道路沿線の村の代表によって構成されるコミュニティ開発委員会を結成し、プログラム実施の事業主体と位置づける。さらに、各プログラムの実施は当該委員会に管理させ、プログラムの活動を通じて能力強化を図る。

行政機関内のコミュニティ開発に携わる技術者、ならびに地域近隣の NGO 職員に OJT 方式で計画策定や事業実施に関する技術移転を実施する。また、設立された住民組織に技術的な支援を行うとともに、研修や技術移転を行い、組織内の人材の育成、能力の向上を図る。

2) 生計向上分野

生計向上にかかるプログラムは、対象村の人的資源および土地資源の活用によって実現可能となる。すなわち、ほとんどの村で実施されている野菜栽培に関しては、その栽培技術向上による生産性の向上や作付けカレンダーの理解による収入向上を図るものであり、全ての村を対象とする。他方、牛耕や畜産など導入による効果はあるものの、村の住民が主体となって実施しない場合は継続性の確保が難しいので、実施に当たっては、各村の意向を十分確認する必要がある。

③ 農業生産性向上プログラム

- ・ 野菜栽培プロジェクト：生産性を向上させるため、高収穫量優良品種を導入する。また、栽培作物の多様化を図り、病虫害などに対するリスクの軽減を図る。作付けカレンダー、土作り、栽培方法、種子の保存方法などの研修を実施する。
- ・ 牛耕プロジェクト：牛耕の導入によって、耕作地面積を拡大する。特に雨期作は天水による穀類が主となることから、耕作地を拡大することによる収量増を図る。
- ・ 稲作振興プロジェクト：乾期にも枯渇しない小河川など、対象地域の恵まれた水資を活用して稲作を導入する。

④ 生産物付加価値向上プログラム

- ・ 共同集出荷プロジェクト：野菜や果樹など、収穫時期による値崩れに対応するために、生産物を集荷し、価格の高い市場に出荷する。
- ・ 生産物運搬プロジェクト：トマトのように運搬中に荷傷みが激しいものや少量の収穫物の運搬手段の改善を図る。
- ・ 収穫後処理・農産加工プロジェクト：収穫した農産物を加工し（ジャム、トマトペースト等）、付加価値を付けて販売する。

⑤ 収入源多角化プログラム

- ・ 畜産、養蜂、養殖プロジェクト：畜産、養殖、養蜂など、農業以外の第一次産業の振興を図る。

3) 生活環境改善分野

生活環境改善にかかるプログラムは、後述の公共施設改善とともに、村に住む人々の基礎的生活分野の改善を目指すものであり、全ての村で実施する。例えば、女性は、農業などの生産活動以外にも、家事、育児など家庭内で行う活動も多い。女性の生活環境を改善し、女性が活発に多様な活動に参加することによりコミュニティ活動を活性化する。

⑥ 生活環境改善プログラム

- ・ 改良かまどプロジェクト：現在の伝統的なかまどよりも熱効率のよいかまどを導入し、薪の使用量の削減を図る。現地で入手可能な粘土およびレンガを用いるもので、作り方の指導以外の投入はしない。
- ・ 識字教育プロジェクト：村において、講師となる住民および生徒となる住民によって識字教育の運営方法が決定され、住民主体で実施する。講師となる住民には、指導方法に関するトレーニングを実施する。
- ・ 手工芸プロジェクト：回収したビニール袋を利用した手工芸品の製作を含め、村の活性化を主眼にする。特に女性が村で生活する上で、グループを作って情報の交換をしながら作業する一つの手段として手工芸は有効となる。
- ・ 給水施設・維持管理プロジェクト：安全な水の確保や水くみ労働の軽減のために、給水施設（井戸）を村に整備する。

⑦ 自然環境改善プログラム

- ・ 植林プロジェクト：乾期に広範囲に行われる火入れは、植生を喪失するばかりではなく、耕作地への類焼等、直接被害をもたらしている。これを改善するために、住民への火入れ防止に対する啓発活動、集落周辺に住民主体で植林を実施する。

4) 公共施設改善分野

対象地域の行政サービスは十分ではなく、村落が行政サービスの一部を補完し、既存施設の機能を確保することが不可欠である。サロンゴに代表される伝統的住民共同作業システムを活用し、この活動を活発化することにより施設の維持管理を図る。

⑧ 公共施設整備プログラム

- ・ 保健医療環境改善プロジェクト：農村部におけるマラリア等の重病人へ十分な対応を行うため、保健施設の整備・改修を実施する。主な疾患であるマラリアや水因性の下痢は、村落内の啓発活動によって疾患率を減少させることが出来るため、啓発活動を積極的に実施する。
- ・ 教育施設環境プロジェクト：児童就学率の向上のために、学校施設の整備・改修を実施する。その上で教員の定着を図る。

(2) 実施体制の整備

コミュニティ開発では、現地調査の実施、開発プログラムの策定、さらに策定された計画の持続的な実施によって開発目標を達成するが、持続的に開発プログラムを実施するためには、実施体制（実施主体）を整備することが重要であり、整備なくして開発目標の達成は困難である。対

象地域では、中央政府あるいは地方政府においても、コミュニティレベルの開発計画を策定・管理する行政の財政状況が脆弱な状況である。そこで、基本方針の「住民組織による維持管理が持続可能となるよう、住民の意向を踏まえた計画とする」とおり、計画段階から実施までの全ての過程に住民自らが係わった上で計画を策定している。以下に実施体制に係るアクターと整備内容を記述する。

(a) アクター

対象地域の、住民主体の開発を実行する重要なアクターとしては、活動の主体となるプロジェクト別住民組織と、事業を主導する開発委員会の2つの異なる性格の組織が挙げられる。本コミュニティ開発計画では、事業および運営管理を住民主体で行うので、コミュニティ開発委員会が重要なアクターとなる。

行政側のアクターとしては、最も重要な位置を占めるのはセクターであり、技術的な支援はリトワールや保健省ならびに DVDA および CCSO から挙げられる。また、Kimpese で活動している NGO (CRAFOD、Agrisud) からの支援も当コミュニティの開発のために連携する。

開発委員会

調査段階で、まず Kilueka ルートおよび Nkondo ルートのそれぞれ 11 村、10 村の Duki からなるコミュニティ開発委員会を設立した。コミュニティ開発委員会は、ルートごとの活動を主導する組織として位置づけ、複数の村に係わる活動に対しては、直接管理を行い、村単独で実施される活動に対しては、間接的に管理を行う。村単独で行う活動に対して直接管理を行うのは既存の村開発委員会で、コミュニティ開発委員会は、村開発委員会を管理し、間接的に村単独の活動を管理する。

村開発委員会とコミュニティ開発委員会の情報交換をスムーズにさせるために、両開発委員会には村代表を含む構成とする。すなわち、既存の村開発委員会には Duki が含まれるので、コミュニティ開発委員会の構成員も Duki とし、Duki を両開発委員会の構成員とする。

プロジェクト別住民組織

ある活動を行うために住民が集まって結成される住民グループである。例えば、畜産などは、村内の住民が数人集まって活動する（村レベルの活動）が、学校など数村の住民が利用するものについては、グループの構成員も複数の村（ゾーンレベルの活動）からなる。特に、緊急復興事業で改修されたコミュニティ道路の維持管理グループは、ルート沿いの村が全て受益者となることから全ての村（ルートレベルの活動）から村人を集める。

セクター

コミュニティ開発を進める上で、組織登録などの行政上の指導、住民間のコンフリクトの解消など、セクターの役割は重要である。セクターは、行政サービスの中で最も密接に当コミュニティ開発計画に関与する。Duki によって構成されるコミュニティ委員会の設立時の規約作成

に対するセクターの助言・指導、また、当委員会のテリトワールや州への登録手続きも、セクターの助言・指導によって行われる。さらに、村内やコミュニティ内で解決できない問題に関しては、セクター長が解決の任に当たる。開発計画においても同様に、重要な決定事項や問題の発生時には、必要な助言、指導をセクター長が行う。セクター長以外のセクター職員は、日常的にプロジェクト別住民組織の活動に対して、助言指導を行う。

その他行政

道路の維持管理方法など道路に関する技術的な助言・指導は、DVDA および CCSO が、保健に関する分野に関しては、保健省が行う。

NGO

Kimpese セクターで、現在活動中の NGO である CRAFOD および Agrisud についても、個々のプロジェクトにおいて、必要に応じて連携、指導、援助を受ける。

(b) 体制

前項で既述のとおり、村住民や住民組織が持続的に活動を行えるよう、図 7.5 に示すような体制を整えている。セクター、DVDA、CCSO からは継続的に活動の管理・指導を受ける。

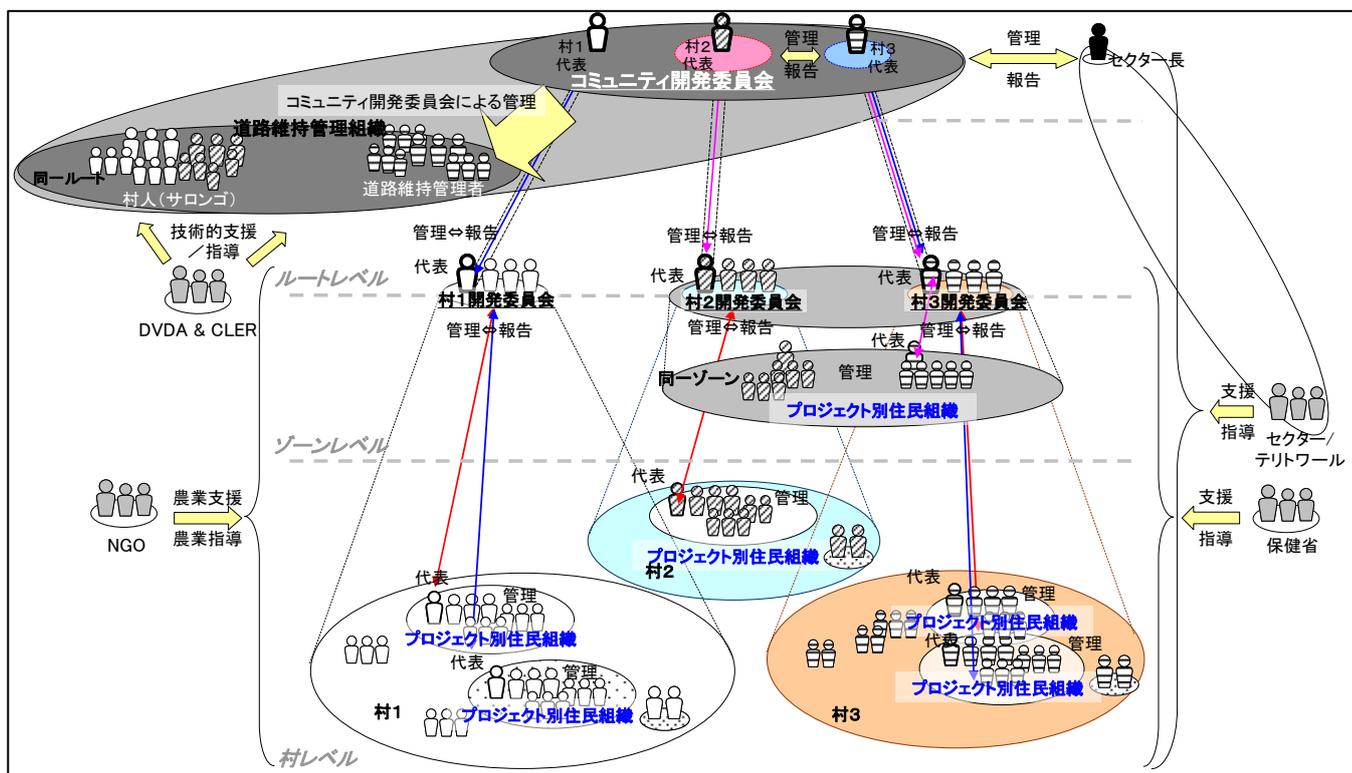


図 7.5 コミュニティの持続的開発体制概念図

コミュニティ開発計画に関する主要なアクターを整理すると、次の通りである。

- ✓ 対象コミュニティ住民
- ✓ 住民組織：コミュニティ開発委員会、村開発委員会、プロジェクト別住民組織
- ✓ 行政：セクター長、セクター職員、DVDA、CLER、保健省

7.2 コミュニティ開発計画の策定プロセス

7.2.1 コミュニティ開発計画の策定背景

「コ」国のようなポスト・コンフリクト国では、ガバナンスや財政基盤が脆弱であるとともに、持続的なコミュニティ開発を図るための行政組織や人材が限定されているため、国全体のコミュニティ開発を効率的に実施していく事は困難であり、コミュニティ開発の実践は援助機関や他国の支援や開発パートナーの協力を頼らざるを得ない状況にある。

特に調査対象地域を含む Cataractes 県 Kimpese セクター周辺地域はアンゴラのザイル州と飛び地のカビンダ州に挟まれるように国境を接し、60年代から内戦状態であったアンゴラからの難民や出稼ぎ目的で流入したアンゴラ人が半定住化し、地元コンゴ民人と共存している地域である。また、地方におけるコミュニティインフラが未整備で、農業生産を主体とした生活基盤も不備であることから、地方部に居住する住民の多くは貧困に直面し、過酷な状況下での生活を強いられている。

このような状況を改善するためには、開発パートナーのコミュニティ開発に対する協力の継続はもとより、自国の人材や行政組織のコミュニティ開発能力を強化・育成することが重要である。また、コミュニティ開発の持続可能性を高め、改修した道路の機能を保全し続けるためには、道路維持管理に係る費用の捻出を考慮にいたした総合開発的アプローチが必要であり、本調査で提案された Kilueka ルートの改修とコミュニティ開発を一体的に実施する「キンペセモデル」を適用することが望ましい。

このような視座に立ち、本件調査完了後、カウンターパートが独自にコミュニティ開発計画策定に当たる場合の資料を提供することを目途に、本調査の成果であるコミュニティプロフィール調査と住民のニーズを把握するためのワークショップの実施、さらに PP により得られた実証項目の計画への適用、ならびに住民参加型計画策定に至る一連の計画策定手法を実際の計画策定のプロセスに当てはめ、次項でガイドライン的に整理する。

7.2.2 コミュニティ開発の実施ステップ

(1) 計画対象地域の決定

通常の計画策定対象地域の選定では、それぞれの候補地域に対する開発可能性調査を実施し、その事業評価結果を比較することにより開発優先順位を決定するのが一般的であるが、「コ」国のように、コミュニティ開発のアクターの数が限定的で人材育成についても発展途上である場合には、トップダウン、つまり経験が豊富でドナーや開発パートナーとのコミュニケーションや情報

量が多い国レベルもしくは州レベルの担当者が経験的に付与する開発優先順位にしたがって対象地域が決定される場合が多い。

まず国家の基本的開発方針に従い、コミュニティ開発のポリシーとシナリオが決定されるが、それに従い計画を策定する階層は国（中央）、地域、州、県、テリトワール、セクター、ルート、ゾーン、アグロメラシオン、ビレッジもしくはカルティエ、グループ等が考えられる。また、本調査で提案しているコミュニティ道路改修とその維持管理を優先的に進めるコミュニティ開発（キンペセモデル）の事業実施主体を考慮すると、州、県、テリトワール、セクターの各レベルの農村開発担当部局と農道整備部局の担当職員が協力して計画の策定、事業の実施・管理に当たることになる。バ・コンゴ州を例にとりて考えてみると、州内の候補対象地域毎の開発ポテンシャルは州を横断する国道1号線に接続するコミュニティ道路沿いのコミュニティとそれ以外のコミュニティとでは、その流通・市場アクセスに関するポテンシャルの差により開発優先性が大きく異なる。国、州レベルからの明確な指示や決定がない場合には、これ等を考慮し計画対象地域（県、テリトワール等）を決定する。

(2) 対象ルートと整備区間の選定

国道1号線に連結するコミュニティ道路の改修とその維持管理および沿線コミュニティの開発を組み合わせたキンペセモデルを適用した場合には、次のステップとして、選定された計画対象地域内のポテンシャルが高いルート(コミュニティ道路)とその整備区間を決定する。対象ルートの選定は、都市部との距離、既存道路の損傷の度合い、道路の勾配、裨益人口等のインデックスを比較し決定する。ルートを決定したら、セクターの管轄区域を越えないように道路改修を実施する区間を決

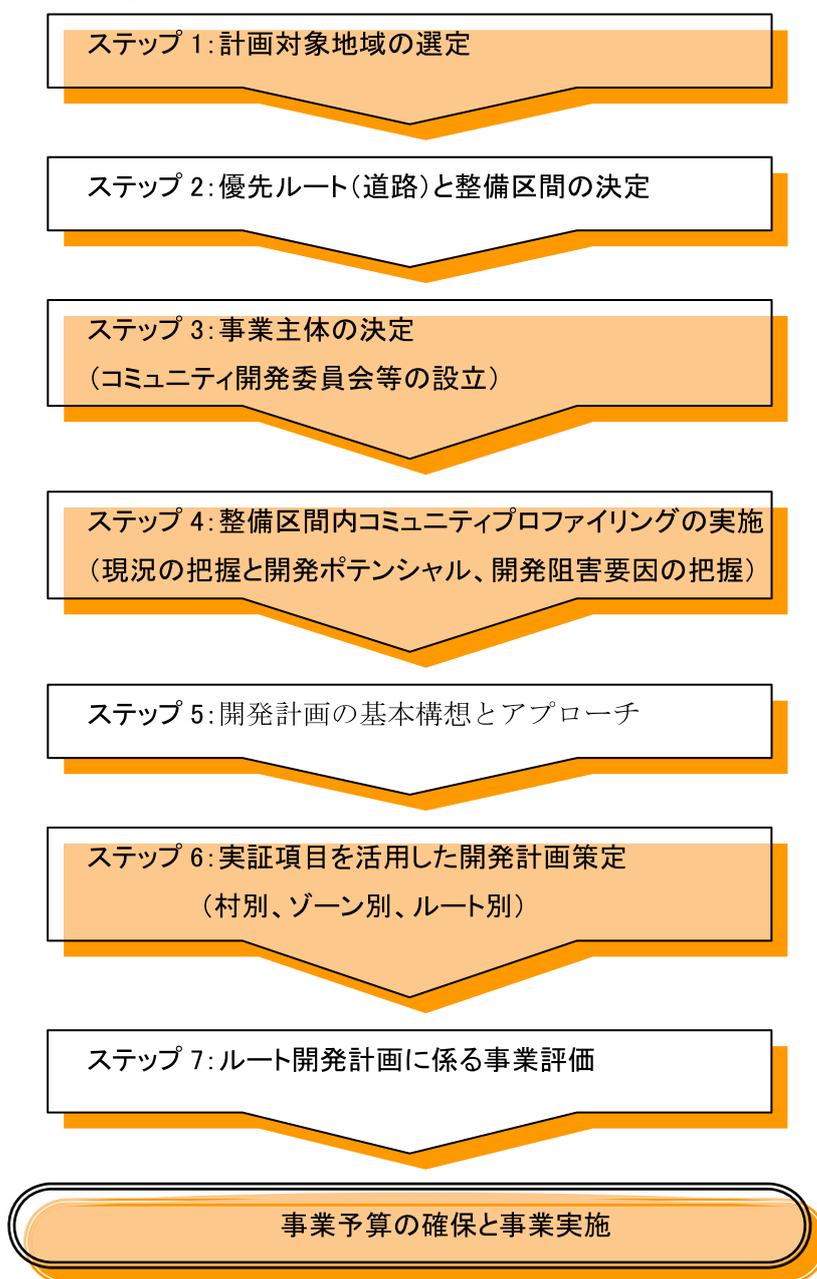


図 7.6 コミュニティ開発の実施ステップ

める。これは、コミュニティ開発を実施すると、村や住民の間でその受益の大小によるジェラシーや、新規土地利用に絡む土地所有者と土地利用問題等、コンフリクトの発生が懸念されるためである。このようなコンフリクトを調整する役割はセクター長の権限であり、実現性と持続可能性が高い計画を策定するためにはセクター長の関与が必須である。本調査の実施中においても、同様の問題の発生が懸念された場合には、速やかにセクター長の調整により複数の課題の発生を回避することができた経験から、セクターの管轄地域を越える整備区間を設定することは避けることとする。

(3) 事業主体の決定

計画に対する責任機関は国全体を取り纏める中央レベル、もしくは州レベルとなるものの、キンペセモデルにおいては、受益者が主体となり事業と施設の維持管理を実施していくことが求められているため、整備区間内に位置する村に居住する住民を構成員とする住民組織が事業主体となる。したがって、受益村落が確定した後、まず、これらの受益村の村長より構成されるコミュニティ開発委員会を設立する。事業実施における技術的支援は県、テリトワール、セクター等行政機関の農村開発担当職員が担うとともに、道路整備担当職員とコミュニティ道路の維持管理活動を実施しているローカル NGO の CLER が行うこととする。

国道、計画対象ルート、整備区間および事業主体等、道路とセクターの管轄範囲、整備区間と受益村の関係を図 7.7 に模式的に示す。

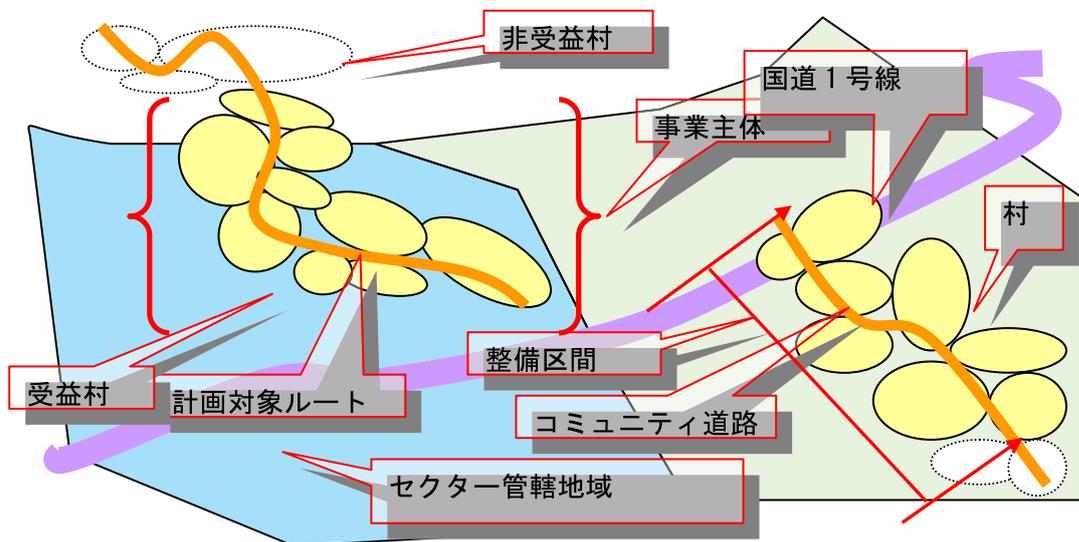


図 7.7 計画対象ルートと整備区間および事業主体の設定概念

(4) 整備区間内コミュニティプロファイリング実施と開発ポテンシャルおよび阻害要因の把握

設定された整備区間内の村（受益村）に対し、コミュニティプロファイリングを実施し、現況、開発のポテンシャル、と住民の意向確認を実施する。この調査の結果を取りまとめ、受益村における農業生産物毎の耕作面積と栽培期間、家畜飼養頭数等の情報を整理し、現況の農業生産状況を把握する。

(5) 開発計画の基本構想の立案

次に、現況の地域資源の賦存状況を住民に把握させるため、住民とともに現況のリソースマップを作成する。また、同時に将来の村における開発の基本構想を立案し、それを計画実施後のリソースマップとして描かせ、双方を対比することにより住民に地元の地域資源の変化と計画基本構想の具体的内容と計画実現のために必要な住民組織の設立等、実施体制の整備に対する理解を深める。なお、リソースマップの作成例を図 7.8 に示す。本調査対象地域の各村のリソースマップは、Kilueka ルートの各村は Annex7.1、Nkondo ルートの各村は Annex7.2 に示した。

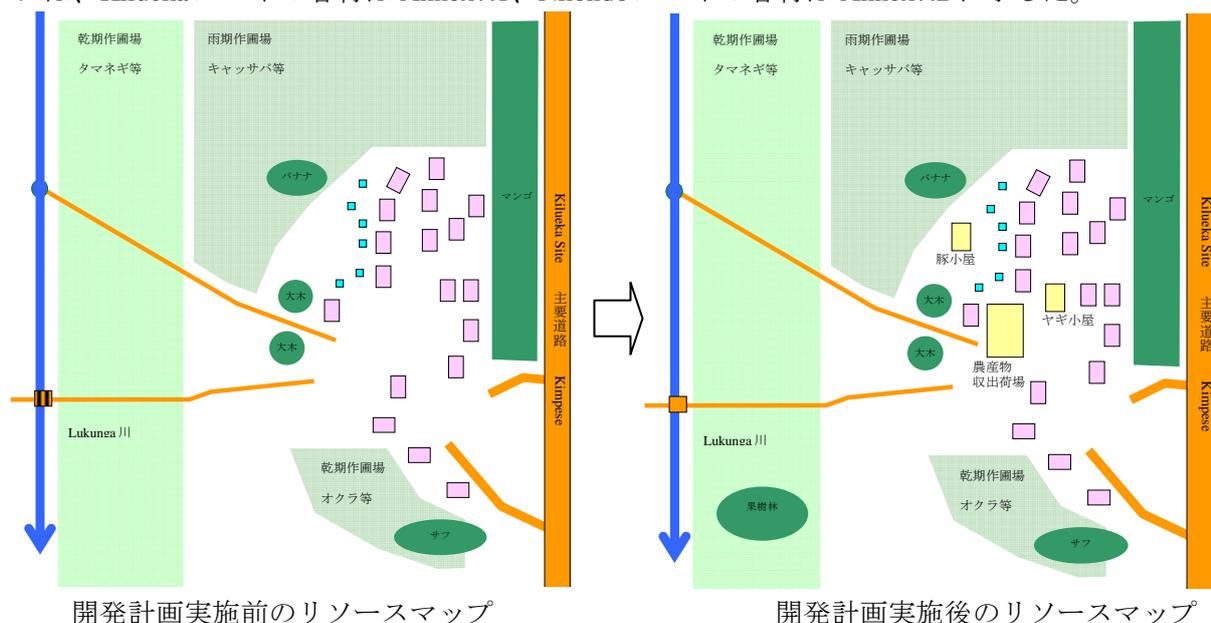


図 7.8 リソースマップ例 (Kilueka ルートの Nkondo)

(6) 実証された項目を活用したコミュニティ開発計画の策定

コミュニティ開発計画の策定においては、計画する事業の仕様、規模、適正整備水準等を設計することが求められるが、本調査においては、PP の成果である実証項目を活用し、以下の流れで事業内容を設計する。

1) 開発プログラムのメニューと技術的受容性評価クライテリアの住民への説明

本調査において PP の内容は住民を対象とするワークショップを実施し決定した。ワークショップでは「生計向上」と「生活環境改善」の分野毎に、PP の内容について村実施優先内容を挙げさせ、選ばれた事業内容ごとに実施する住民グループの技術的受容性評価クライテリア（表 6.7）と照合し、適合しない事業内容を削除後、実施優先度の高い物（5 位まで）を事業内容とした。

以上のプロセスで選定された事業内容は、バ・コンゴ州内の農村地域の現況に大きな違いが認められないことが予想されることから、州内の他の地域に適用することが可能であり、これを開発プログラムのメニューとする。なお、コミュニティプロファイリングの調査結果により、

明らかに現況が本調査対象地域と異なる場合には、以下に記述する住民の意向確認により、新たな開発プログラムを付加する。

2) 住民の意向確認と技術的側面から判断した開発優先度の付与

計画対象ルート開発区間内の村から、村長を含む複数名の代表者を集め、ルートの維持管理手法の説明を行うとともに、開発プログラムのメニューと適正整備水準を住民に提示し、村レベル、ならびにゾーンレベルの住民の開発に対する意向を確認し、開発優先度の高いプログラムを「生計向上」と「生活環境改善」の分野毎に選定する。なお、この段階で、住民からメニューに提示されたもの以外の開発内容が提示された場合や、コミュニティプロファイリングの結果から、本調査対象地域と現況が大きく異なる地域の場合には、その地域特性を踏まえた事業内容をメニューに加えて住民に提示する。

選定されたプログラムを技術的受容性評価クライテリアと照合し、適合しない事業内容を削除後、住民（村）の代表者により開発プログラムのメニューに開発優先度を付与する。

なお、プロジェクト別技術的受容性評価クライテリアは、第6章に示した通りである。

3) 事業内容の設計

開発優先度の高いプログラムについて、PP で実施された適正整備水準、適正規模をもとに、コミュニティ開発計画を策定する。なお、計画策定単位は、道路改修とその維持管理はルート、学校、保健所、周辺道路整備、エネルギー、余暇開発についてはゾーン、その他の項目は村とする。

なお、実証項目から想定される整備水準および仕様は、第6章に示した通りである。

(7) ルート開発計画に対する事業評価

村レベルで策定した生計向上・生活環境開発計画の現況における生産費と収益と、計画における事業費（生産費、経営面積拡大費、機材維持管理費等）と事業効果を算定し、増加便益を求める。また、ゾーンレベルで策定した公共・インフラ整備計画の現況における運営費、維持管理費を算出するとともに、計画における事業費と運営・維持管理費を求める。

次に、各村、ゾーンで算定されたそれぞれの事業費と維持管理費ならびに増加便益を合計し、ゾーンレベルの計画における事業評価を実施し、開発の妥当性について評価を実施する。ただし、道路改修事業に係る事業費については、道路が公共財であることに鑑み、国家の財政もしくは援助により整備されるものとし、事業評価における事業費から除外して考えることとする。

次頁では、Kilueka ルートを対象に、村レベル、ゾーンレベルの事業費の積算、事業効果の算定、増加便益の算出、ルート開発計画に対する事業評価の結果について整理する。

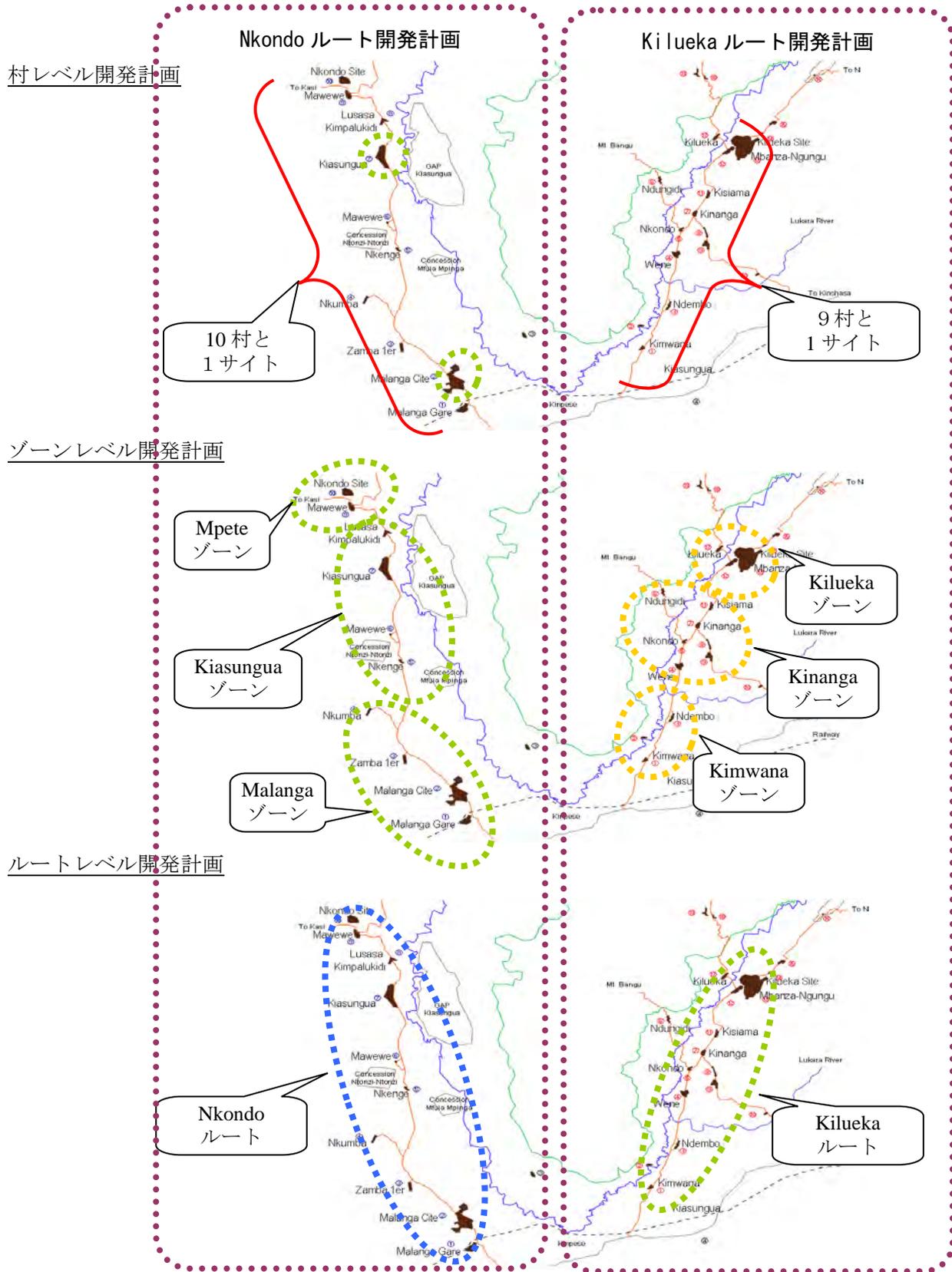


図 7.9 計画策定単位と位置関係

7.3 コミュニティ開発計画の策定

調査対象地域でのコミュニティ開発計画を、前述の「7.2 コミュニティ開発計画策定のプロセス」にしたがって策定する。このステップに従って実施した調査の内容およびアウトプットを、以下に整理する。これをコミュニティ開発計画策定の実施フローとして、実施ステップごとのアウトプットおよびそのための調査方法は、図 7.2 に示したとおりである。

図 7.2 のステップ 1~3 までは、既に以下の通り決定している。

ステップ 1：計画対象地域の選定：Kimpese セクター⇒Kilueka ルート

ステップ 2：優先ルートと整備区間の決定：Kilueka ルート

ステップ 3：事業主体の決定：ルクンガ渓谷開発委員会 I

また、ステップ 4 については、現地再委託調査によって 21 村に対して実施した（4 章参照）。

ステップ 4：整備区間内コミュニティプロファイリングの実施

現地踏査、コミュニティプロファイリング調査、ワークショップおよび関係機関からの聞き取り調査をもとに、人口、世帯数、耕地面積などの対象コミュニティの特性、および開発のポテンシャルや阻害要因を把握する。その上で、現況の課題・解決すべき問題の分析をまとめる。

ステップ 5：開発計画の基本構想とアプローチ

ステップ 4 で得られた情報を整理し、将来像（ターゲット）、開発目標（プロジェクト目標）を設定する。参加型ワークショップおよび関連機関との協議を行い、コミュニティ開発のためのプログラムの内容を概定、実施対象を設定する。以上を基に、開発目標実現のための方策（目標年次、短・中）を概定する。

ステップ 6：実証項目を活用した開発計画策定

PP で得られた結果をもとに、計画を具体化するため計画の実施可能性のクライテリアおよび整備水準との照合作業を行い、村別、ゾーン別およびルート別のコミュニティ開発計画を策定する。

ステップ 7：ルート開発計画に係る事業評価

開発計画の生計向上に係る項目については、PP で得られた便益の計算結果をもとに評価を行う。

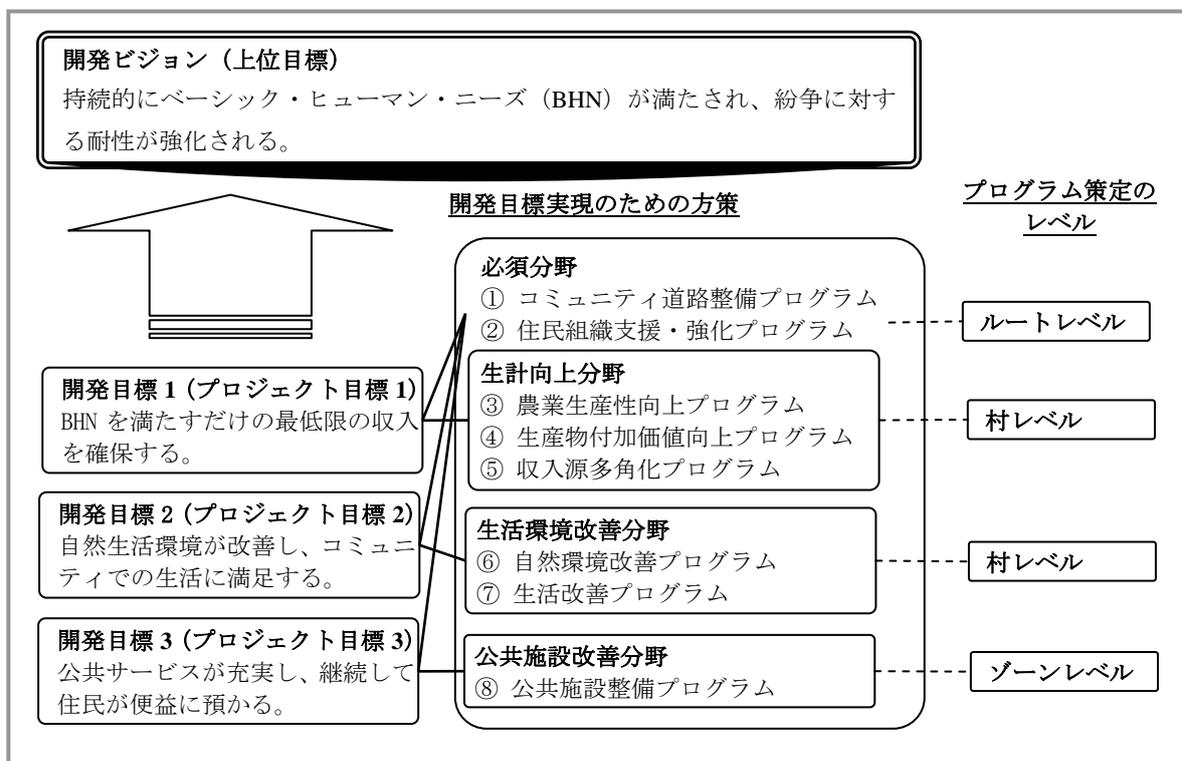
なお、Nkondo ルートにおいて、沿線のコミュニティが利用している道路は州道であり、CLER が実際の道路維持管理を実施している。これに対して、Kilueka ルートの道路は、コミュニティ道路であり住民による日常的な維持管理が必要な状況にある。したがって、Kilueka ルートの開発計画には道路の維持管理プロジェクトが含まれ、他方 Nkondo ルートの開発計画には道路の維持管理プロジェクトが含まれない計画となる。

7.3.1 開発ビジョンと開発目標

ステップ 4、ステップ 5 より、短・中期計画における本プロジェクトの開発ビジョン（上位目標）、開発目標（プロジェクト目標）を設定した。開発目標は、コミュニティプロファイル調査等から得られた課題に対する対策より設定した。開発目標の達成は、「7.1.3 コミュニティ開発計画の基本構想」に示す指標により判定する。開発ビジョン（上位目標）は、開発目標（プロジェクト目標）が満たされたことで得られるコミュニティの将来像（開発ビジョン）となる。以下に、対象地域の開発ビジョン（上位目標）、開発目標（プロジェクト目標）を示す。

開発目標実現のための方策の項目は、分野毎にプログラムによって構成される。プログラム中の、①コミュニティ道路整備プログラムは道路ネットワークを確保するものであり、開発目標達成のために必要不可欠である(本調査では Kilueka ルートを緊急復興事業として整備)。また、②住民組織支援・強化プログラムは、プログラムの持続性を確保するために、実施主体となる住民組織の支援・強化および行政サービスの能力向上を図るものである。生計向上分野のプログラムは、③農業生産性向上、④生産物付加価値向上および⑤収入源多角化、生活環境改善分野のプログラムは⑥自然環境改善および⑦生活環境改善、公共施設改善分野のプログラムは⑧公共施設改善から構成される。

また、上述の各プログラムは、それぞれ村レベルで策定されるプログラム（生計向上および生活環境改善分野のプログラム）、ゾーンレベルで策定されるプログラム（公共施設改善分野のプログラム）およびルートレベルで策定されるプログラム（必須分野のプログラム）に区分される。



7.3.2 コミュニティ開発計画の実施プロジェクト

コミュニティ開発計画の内容は、下表に示すとおり村ごとに実施するプロジェクト、ゾーンごとに実施するプロジェクトおよびルートで実施するプロジェクトからなる。なお、プロジェクトは、(1) 開発プログラムのメニューと技術的受容性評価クライテリアの住民説明、(2) 住民の意向確認と技術的側面から判断した開発優先度によって決定した。

ただし、生活環境分野および公共施設改善分野で実施するプロジェクトは基礎的生活環境を確保する上で必要であること、ルートで実施するプロジェクトはコミュニティ開発の効果発現のために必要であることから、これらについては、全てのコミュニティに対してプロジェクトを実施する計画とした。

対象村	優先プロジェクト			
	村ごとに実施するプロジェクト		ゾーンごとに実施するプロジェクト	ルートで実施するプロジェクト
	生計向上分野	生活環境分野	公共施設改善分野	必須分野
Kimwana	稲作振興、畜産、養殖、牛耕、野菜栽培	植林、給水施設、改良かまど、識字教育、手工芸	保健アニメーター (保健医療施設改善および教育環境改善は、Kimpese の施設を利用するため該当なし)	コミュニティ道路維持管理 住民組織支援・強化
Ndembo	牛耕、畜産、野菜栽培	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸		
Wene	牛耕、畜産、野菜栽培	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸	保健アニメーター 保健医療施設改善 教育環境改善	
Ndunguidi	畜産、養蜂、野菜栽培	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸		
Nkondo	畜産、野菜栽培	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸		
Kinanga	牛耕、畜産、養蜂、野菜栽培	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸	保健アニメーター 保健医療施設改善 教育環境改善	
Kisiama	畜産、牛耕、稲作振興、野菜栽培	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸		
Mbanza Ndamba	牛耕、畜産、養殖、養蜂、野菜栽培	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸		
Kilueka	牛耕、畜産、野菜栽培	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸	保健アニメーター 保健医療施設改善 教育環境改善	
Kilueka Site	畜産、野菜栽培、	植林、改良かまど、給水施設、識字教育、手工芸		

7.3.3 事業規模と水準の設定

(1) 各村で実施するプログラムの内容

生計向上および生活環境に係るプログラムは、既述のように村ごとに計画を策定した。各村で実施するプログラムの内容と事業規模を以下の表に示す。プログラム内のプロジェクト内容は、PPシートに示すとおりである（Annex 6.10 参照）。各村での事業規模は、PPシートに基づき、本調査の結果を反映させた上で、目標年を5年と設定した。なお、表に示す人口および世帯数は、実施済のコミュニティプロフィール調査結果に基づいた。

① 生計向上分野のプロジェクト

各村における生計向上分野のプロジェクトとその事業規模を以下に示す。事業内容は前述のように決定され、事業規模は、プロジェクトを実施することにより5年後に一人当たりの日平均収入が2割向上するように設定した。

村	世帯数(世帯)	人口(人)	雨期作耕地面積(ha)	プロジェクト	事業規模(目標値)	投入額	根拠	実施の有無(空欄は未実施)
Kimwana	44	172	0.36 ha	① 稲作振興	・1箇所 2.0ha	3,410 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者：25 世帯 投入：種子代、水田造成費 期待する便益：25 世帯×6 人×0.2(US\$/日)×365 日=10,950(US\$/年) PP から算出した単位増加便益：2ha あたり 2,640US\$ 事業量：10,950(US\$/年)÷2,640(US\$/ha)÷2 回(=二期作、年二回栽培)=2.1ha≒2ha 投入額：336(US\$/0.2ha)×2.0ha÷0.2ha=3,360US\$ (水田造成のための人件費) +50US\$(2ha 分の種籾代) 	実施済
				② 畜産	・1箇所 オス1頭 メス3頭	886 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者：7 世帯 投入：親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 期待する便益：7 世帯×6 人×0.2(US\$/日)×365 日=3,066 (US\$/年) 事業量：便益としてオス豚1頭、メス豚3頭を導入すると1対×646(US\$/対)+2頭×885(US\$/メス豚)×2回出産/メス豚1頭=4,832US\$ 投入額：443,000Fc÷500Fc/US\$= 886US\$ 	
				③ 養殖		50 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 1箇所 50 ドル、稚魚 	
				④ 牛耕	・雨期作増加面積：12.7 ha (0.29 ha/世帯) ・牛1セット	1,700 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者：172 人 (44 世帯) 投入：牛(1 対)、牛耕用道具 期待する便益：172 人×0.2(US\$/日)×365 日=12,556 (US\$/年) 事業量：雨期作増加面積：12,556(US\$/年)÷987(US\$/ha)=12.7 (ha)→12.7ha/44 世帯=0.29(ha/世帯)≒ 0.05(ha/人) 投入額：牛1 対 1,700 ドル (年 12.6ha 新規面積必要なところ、牛1 対で年 21.6ha 対応可能なため1 対で対応化) 	
				⑤ 野菜栽培	・2.4ha (0.11ha/世帯)	440 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者：22 世帯 (総世帯の半数) 投入：種子 期待する便益：22 世帯×6 人×0.2(US\$/日)×365 日=9,636 (US\$/年) 事業量：9,636 (US\$/年)÷4,000(US\$/ha)=2.4(ha) 2.4ha/22 世帯=0.11(ha/世帯) →コミュニティ圃場 2.4ha 投入額：22 世帯×20 ドル=440 ドル 	16 世帯分実施
Ndembo	28	130	0.52 ha	① 牛耕	・雨期作新規	1,700 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者：130 人 (28 世帯) 投入：牛 (1 対)、牛耕用道具 	1 セット投入

村	世帯数(世帯)	人口(人)	雨期作耕地面積(ha)	プロジェクト	事業規模(目標値)	投入額	根拠	実施の有無(空欄は未実施)
					面積：9.6 ha (0.34 ha/世帯) ・牛1セット		・期待する便益：130人×0.2(US\$/日)×365日=9,490(US\$/年) ・事業量：雨期作増加面積：9,490(US\$/年)÷987(US\$/ha)=9.6(ha)→9.6ha/28世帯=0.34(ha/世帯) ・投入額：牛1対1,700ドル	済
				②畜産	・1箇所 オス1頭 メス3頭	886ドル	・実施者：7世帯 ・投入：親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 ・期待する便益：7世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=3,066(US\$/年) ・事業量：便益としてオス豚1頭、メス豚3頭を導入すると1対×646(US\$/対)+2頭×885(US\$/メス豚)×2回出産/メス豚1頭=4,832US\$ ・投入額：443,000Fc÷500(Fc/US\$)=886US\$	
				③野菜栽培	・1.5ha (0.11ha/世帯)	280ドル	・実施者：14世帯 ・投入：種子 ・期待する便益：14世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=6,132(US\$/年) ・事業量：6,132(US\$/年)÷4,000(US\$/ha)=1.5ha 1.5ha/14世帯=0.11(ha/世帯) ・14世帯×20ドル=280ドル	20世帯分実施
Wene	120	628	0.43 ha	①牛耕	・雨期作新規面積：46.4 ha (0.39 ha/世帯) ・牛2セット	3,400ドル	・実施者：628人(120世帯) ・投入：牛(1対)、牛耕用道具 ・期待する便益：628人×0.2(US\$/日)×365日=45,844(US\$/年) ・事業量：雨期作増加面積：45,844(US\$/年)÷987(US\$/ha)=46.4(ha)→46.4ha/120世帯=0.39(ha/世帯) 46.4(ha)÷21.6(ha/対)=2.1対=2対 ・投入額：牛1対1,700ドル×3=5,100ドル	
				②畜産	・1箇所 オス1頭 メス3頭	886ドル	・実施者：7世帯 ・投入：親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 ・期待する便益：7世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=3,066(US\$/年) ・事業量：便益としてオス豚1頭、メス豚3頭を導入すると1対×646(US\$/対)+2頭×885(US\$/メス豚)×2回出産/メス豚1頭=4,832US\$ ・投入額：443,000Fc÷500(Fc/US\$)=886US\$	
				③野菜栽培	・6.6ha (0.11ha/世帯)	1,200ドル	・実施者：60世帯(総世帯の半数) ・投入：種子 ・期待する便益：60世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=26,280(US\$/年) ・事業量：26,280(US\$/年)÷4,000(US\$/ha)=6.6(ha) 6.6ha/60世帯=0.11(ha/世帯) ・投入額：60世帯×20ドル=1,200ドル	23世帯分実施
Ndunguidi	20	74	0.46 ha	①畜産	・1箇所 オス1頭 メス3頭	886ドル	・実施者：7世帯 ・投入：親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 ・期待する便益：7世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=3,066(US\$/年) ・事業量：便益としてオス豚1頭、メス豚3頭を導入すると1対×646(US\$/対)+2頭×885(US\$/メス豚)×2回出産/メス豚1頭=4,832US\$ ・投入額：443,000Fc÷500(Fc/US\$)=886US\$	
				②養蜂		810ドル	各村1箇所、1箇所810ドル、蜜箱や採蜂箱等	
				③野菜栽培	・1.1ha (0.11ha/世帯)	200ドル	・実施者：10世帯(総世帯の半数) ・投入：種子 ・期待する便益：10世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=4,380(US\$/年) ・事業量：4,380(US\$/年)÷4,000(US\$/ha)=1.1(ha) 1.1ha/10世帯=0.11(ha/世帯) ・投入額：10世帯×20ドル=200ドル	5世帯分実施
Nkondo	46	220	0.46 ha	①畜産		886ドル	・実施者：7世帯 ・投入：親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 ・期待する便益：7世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=	実施済

村	世帯数(世帯)	人口(人)	雨期作耕地面積(ha)	プロジェクト	事業規模(目標値)	投入額	根拠	実施の有無(空欄は未実施)
					・1箇所 オス1頭 メス3頭		3,066 (US\$/年) ・事業量：便益としてオス豚1頭、メス豚3頭を導入すると1対×646(US\$/対)+2頭×885(US\$/メス豚)×2回出産/メス豚1頭=4,832US\$ ・投入額：443,000Fc÷500(Fc/US\$)=886US\$	
				②野菜栽培	・2.5ha (0.11ha/世帯)	460ドル	・実施者：23世帯(総世帯の半数) ・投入：種子 ・期待する便益：23世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=10,074(US\$/年) ・事業量：10,074(US\$/年)÷4,000(US\$/ha)=2.5(ha) 2.5ha÷23世帯=0.11(ha/世帯) ・投入額：23世帯×20ドル=460ドル	24世帯分実施
Kinanga	68	408	0.45 ha	①牛耕	・雨期作新規面積：30.2 ha (0.44 ha/世帯) ・牛1セット	1,700ドル	・実施者：408人(68世帯) ・投入：牛(1対)、牛耕用道具 ・期待する便益：408人×0.2(US\$/日)×365日=29,784(US\$/年) ・事業量：雨期作増加面積：29,784(US\$/年)÷987(US\$/ha)=30.2(ha)→30.2ha÷68世帯=0.44(ha/世帯) 30.2(ha)÷21.6(ha/頭)=1.4対≒1対 ・投入額：牛1対1,700ドル×2=3,400ドル	2セット投入済
				②畜産	・1箇所 オス1頭 メス3頭	886ドル	・実施者：7世帯 ・投入：親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 ・期待する便益：7世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=3,066(US\$/年) ・事業量：便益としてオス豚1頭、メス豚3頭を導入すると1対×646(US\$/対)+2頭×885(US\$/メス豚)×2回出産/メス豚1頭=4,832US\$ ・投入額：443,000Fc÷500Fc/US\$= 886US\$	
				③養蜂	・1箇所	810ドル	・実施者： ・投入：蜜箱や採蜂箱等 ・投入額：1箇所810ドル	
				④野菜栽培	・3.7ha (0.11ha/世帯)	680ドル	・実施者：34世帯(総世帯の半数) ・投入：種子 ・期待する便益：34世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=14,892(US\$/年) ・事業量：14,892(US\$/年)÷4,000(US\$/ha)=3.7(ha) 3.7ha÷34世帯=0.11(ha/世帯) ・投入額：34世帯×20ドル=680ドル	20世帯分実施
Kisiama	27	151	0.72 ha	①畜産	・1箇所 オス1頭 メス3頭	886ドル	・実施者：7世帯 ・投入：親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 ・期待する便益：7世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=3,066(US\$/年) ・事業量：便益としてオス豚1頭、メス豚3頭を導入すると1対×646(US\$/対)+2頭×885(US\$/メス豚)×2回出産/メス豚1頭=4,832US\$ ・投入額：443,000Fc÷500Fc/US\$= 886US\$	
				②牛耕	・雨期作新規面積：11.2 ha (0.41 ha/世帯) ・牛1セット	1,700ドル	・実施者：151人(27世帯) ・投入：牛(1対)、牛耕用道具 ・期待する便益：151人×0.2(US\$/日)×365日=11,023(US\$/年) ・事業量：雨期作増加面積：11,023(US\$/年)÷987(US\$/ha)=11.2(ha)→11.2ha÷27世帯=0.41(ha/世帯) ・投入額：牛1対1,700ドル	
				③稲作振興	・1箇所 2.0ha	3,360ドル	・実施者：23世帯 ・投入：種子代、水田造成費 ・期待する便益：23世帯×6人×0.2(US\$/日)×365日=10,074(US\$/年) ・事業量：10,074(US\$/年)÷3,000(US\$/ha)÷2回=1.7ha≒2.0ha	
				④野菜栽培	・1.5ha (0.11ha/世帯)	280ドル	・実施者：14世帯 ・投入：種子	20世帯分実施

村	世帯数(世帯)	人口(人)	雨期作耕地面積(ha)	プロジェクト	事業規模(目標値)	投入額	根拠	実施の有無(空欄は未実施)
							<ul style="list-style-type: none"> 期待する便益: $14 \text{ 世帯} \times 6 \text{ 人} \times 0.2(\text{US\\$}/\text{日}) \times 365 \text{ 日} = 6,132 (\text{US\\$}/\text{年})$ 事業量: $6,132 (\text{US\\$}/\text{年}) / 4,000(\text{US\\$}/\text{ha}) = 1.5 (\text{ha})$ $1.5\text{ha} / 14 \text{ 世帯} = 0.11 (\text{ha}/\text{世帯})$ 投入額: $14 \text{ 世帯} \times 20 \text{ ドル} = 280 \text{ ドル}$ 	
Mbanza Ndamba	91	494	0.34 ha	①牛耕	<ul style="list-style-type: none"> 雨期作新規面積: 36.5 ha (0.40 ha/世帯) 牛 2 セット 	3,400 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者: 494 人 (91 世帯) 投入: 牛 (1 対)、牛耕用道具 期待する便益: $494 \text{ 人} \times 0.2(\text{US\\$}/\text{日}) \times 365 \text{ 日} = 36,062 (\text{US\\$}/\text{年})$ 事業量: 雨期作増加面積: $36,062(\text{US\\$}/\text{年}) / 987(\text{US\\$}/\text{ha}) = 36.5(\text{ha}) \rightarrow 36.5\text{ha} / 91 \text{ 世帯} = 0.40(\text{ha}/\text{世帯})$ $36.5(\text{ha}) / 21.6(\text{ha}/\text{対}) = 1.69 \text{ 対} \approx 2 \text{ 対}$ 投入額: 牛 1 対 1,700 ドル $\times 2 = 3,400 \text{ ドル}$ 	1 セット投入済
				②畜産	<ul style="list-style-type: none"> 1 箇所 オス 1 頭 メス 3 頭 	886 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者: 7 世帯 投入: 親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 期待する便益: $7 \text{ 世帯} \times 6 \text{ 人} \times 0.2(\text{US\\$}/\text{日}) \times 365 \text{ 日} = 3,066 (\text{US\\$}/\text{年})$ 事業量: 便益としてオス豚 1 頭、メス豚 3 頭を導入すると $1 \text{ 対} \times 646(\text{US\\$}/\text{対}) + 2 \text{ 頭} \times 885(\text{US\\$}/\text{メス豚}) \times 2 \text{ 回出産} / \text{メス豚 1 頭} = 4,832\text{US\\$}$ 投入額: $443,000\text{Fc} \div 500(\text{Fc}/\text{US\\$}) = 886\text{US\\$}$ 	
				③養殖		50 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 1 箇所 50 ドル、稚魚 	
				④養蜂		810 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者: 投入: 蜜箱や採蜂箱等 投入額: 1 箇所 810 ドル 	
				⑤野菜栽培	<ul style="list-style-type: none"> 5.0ha (0.11ha/世帯) 	920 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者: 46 世帯 投入: 種子 期待する便益: $46 \text{ 世帯} \times 6 \text{ 人} \times 0.2(\text{US\\$}/\text{日}) \times 365 \text{ 日} = 20,148(\text{US\\$}/\text{年})$ 事業量 $20,148 (\text{US\\$}/\text{年}) / 4,000(\text{US\\$}/\text{ha}) = 5.0(\text{ha})$ $5.0\text{ha} / 46 \text{ 世帯} = 0.11(\text{ha}/\text{世帯})$ 投入額: $46 \text{ 世帯} \times 20 \text{ ドル} = 920 \text{ ドル}$ 	24 世帯分実施
Kilueka	91	455	0.58 ha	①牛耕	<ul style="list-style-type: none"> 雨期作新規面積: 33.7 ha (0.37 ha/世帯) 牛 2 セット 	3,400 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者: 455 人 (91 世帯) 投入: 牛 (1 対)、牛耕用道具 期待する便益: $455 \text{ 人} \times 0.2(\text{US\\$}/\text{日}) \times 365 \text{ 日} = 33,215 (\text{US\\$}/\text{年})$ 事業量: 雨期作増加面積: $33,215(\text{US\\$}/\text{年}) / 987(\text{US\\$}/\text{ha}) = 33.7(\text{ha}) \rightarrow 33.7\text{ha} / 91 \text{ 世帯} = 0.37(\text{ha}/\text{世帯})$ $33.7(\text{ha}) / 21.6(\text{ha}/\text{対}) = 1.56 \text{ 対} \approx 2 \text{ 対}$ 投入額: 牛 1 対 1,700 ドル $\times 2 = 3,400 \text{ ドル}$ 	1 セット投入済
				②畜産	<ul style="list-style-type: none"> 1 箇所 オス 1 頭 メス 3 頭 	886 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者: 7 世帯 投入: 親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 期待する便益: $7 \text{ 世帯} \times 6 \text{ 人} \times 0.2(\text{US\\$}/\text{日}) \times 365 \text{ 日} = 3,066 (\text{US\\$}/\text{年})$ 事業量: 便益としてオス豚 1 頭、メス豚 3 頭を導入すると $1 \text{ 対} \times 646(\text{US\\$}/\text{対}) + 2 \text{ 頭} \times 885(\text{US\\$}/\text{メス豚}) \times 2 \text{ 回出産} / \text{メス豚 1 頭} = 4,832\text{US\\$}$ 投入額: $443,000\text{Fc} \div 500\text{Fc}/\text{US\\$} = 886\text{US\\$}$ 	
				③野菜栽培	<ul style="list-style-type: none"> 5.0ha (0.11ha/世帯) 	920 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者: 46 世帯 投入: 種子 期待する便益: $46 \text{ 世帯} \times 6 \text{ 人} \times 0.2(\text{US\\$}/\text{日}) \times 365 \text{ 日} = 20,148(\text{US\\$}/\text{年})$ 事業量: $20,148 (\text{US\\$}/\text{年}) / 4,000(\text{US\\$}/\text{ha}) = 5.0(\text{ha})$ $5.0\text{ha} / 46 \text{ 世帯} = 0.11 (\text{ha}/\text{世帯})$ 投入額: $46 \text{ 世帯} \times 20 \text{ ドル} = 920 \text{ ドル}$ 	27 世帯分実施
Kilueka Site	230	1,385	0.20 ha	①畜産	<ul style="list-style-type: none"> 1 箇所 オス 1 頭 メス 4 頭 	886 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 実施者: 7 世帯 投入: 親豚購入費、運営維持管理費、畜舎設営費 期待する便益: $7 \text{ 世帯} \times 6 \text{ 人} \times 0.2(\text{US\\$}/\text{日}) \times 365 \text{ 日} = 3,066 (\text{US\\$}/\text{年})$ 事業量: 便益としてオス豚 1 頭、メス豚 3 頭を導入すると $1 \text{ 対} \times 646(\text{US\\$}/\text{対}) + 2 \text{ 頭} \times 885(\text{US\\$}/\text{メス豚}) \times 2 \text{ 回出産} / \text{メス豚 1 頭} = 4,832\text{US\\$}$ 	

村	世帯数(世帯)	人口(人)	雨期作耕地面積(ha)	プロジェクト	事業規模(目標値)	投入額	根拠	実施の有無(空欄は未実施)
				② 野菜栽培	・ 6.4ha (0.11ha/世帯)	1,160 ドル	<ul style="list-style-type: none"> 投入額：443,000Fc ÷ 500(Fc/US\$) = 886US\$ 実施者：58 世帯 投入：種子 期待する便益：58 世帯 × 6 人 × 0.2(US\$/日) × 365 日 = 25,404(US\$/年) 事業量：25,404 (US\$/年) ÷ 4,000(US\$/ha) = 6.4(ha) 12.6ha ÷ 115 世帯 = 0.11(ha/世帯) 投入額：58 世帯(世帯の半数がアンゴラへ帰還すると想定し、現総世帯数の 1/4) × 20 ドル = 1,160 ドル 	20 世帯分実施
合計 (平均)	765	4,117	(0.46 ha)	牛耕	<ul style="list-style-type: none"> 雨期作増加面積：180.3ha (0.24ha/世帯) 牛 10 セット 	17,000 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana：1 セット ・ Ndembo：1 セット (投入済) ・ Wene：2 セット ・ Kinanga：2 セット (投入済) ・ Kisiana：1 セット ・ Mbanza Ndamba：2 セット (1 セット投入済) ・ Kilueka：2 セット (1 セット投入済)	
				野菜栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・ 35.7ha (0.11ha/世帯) 	6,540 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana：22 世帯 (16 世帯実施済) ・ Ndembo：14 世帯 (20 世帯実施済) ・ Wene：60 世帯 (23 世帯実施済) ・ Ndunguidi：10 世帯 (5 世帯実施済) ・ Nkondo：23 世帯 (24 世帯実施済) ・ Kinanga：34 世帯 (20 世帯実施済) ・ Kisiana：14 世帯 (20 世帯実施済) ・ Mbanza Ndamba：46 世帯 (24 世帯実施済) ・ Kilueka：46 世帯 (27 世帯実施済) ・ Kilueka Site：58 世帯 (20 世帯実施済)	
				稲作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4.0ha 	6,770 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana：2.0ha (0.2a 実施済) ・ Kisiana：2.0ha	
				養蜂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 式 	2,430 ドル	対象村および事業量 ・ Ndunguidi：1 式 ・ Kinanga：1 式 ・ Mbanza Ndamba：1 式	
				畜産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 式 	8,860 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana：1 式 ・ Ndembo：1 式 ・ Wene：1 式 ・ Ndunguidi：1 式 ・ Nkondo：1 式 (実施済) ・ Kinanga：1 式 (実施済) ・ Kisiana：1 式 ・ Mbanza Ndamba：1 式 ・ Kilueka：1 式 ・ Kilueka Site：1 式	
				養殖	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 式 	100 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana：1 式 ・ Mbanza Ndamba：1 式	

② 生活環境改善分野のプロジェクト

生活環境改善分野のプロジェクトに関しては、5年後に給水、生活環境、集落をとりまく自然環境等が改善され、生活の質の向上に寄与することが目標となる。

村	世帯数 世帯	人口 (人)	プロジェクト	事業規模 (目標値)	投入額	根拠	実施の有無 (空欄は未実施)
Kimwana	44	172	給水	0 箇所	—	今後も Resideso の水道を利用。	
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	
			保健アニメーター	1 人	100 ドル	1 人/50 世帯	
			改良かまど	22 世帯	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 2 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費 (編み棒など)	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費 (交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル)	実施済
Ndembo	28	130	給水	1 箇所	7000 ドル	需要量: 人口 130 人 x 8 リットル/人日=1,040 リットル (1 本) 供給量: 浅井戸深さ 7m で常時 1000 リットル供給可能 (水位 0.6m 分) 整備費: 1 本 7000 ドル	
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	PP で 苗木配布済
			保健アニメーター	1 人	100 ドル	1 人/50 世帯	
			改良かまど	14 世帯	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 36 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費 (編み棒など)	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費 (交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル)	実施済
Wene	120	628	給水	5 箇所	35,000 ドル	需要量: 人口 628 人 x 8 リットル/人日=5024 リットル 供給量: 浅井戸深さ 7m で常時 1000 リットル供給可能 (水位 0.6m 分) 整備費: 1 本 7000 ドル	PP で 1 本整備済
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	
			保健アニメーター	2 人	200 ドル	120 世帯/50 世帯=2.4≒2 人	
			改良かまど	60 世帯	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 1 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費 (編み棒など)	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費 (交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル)	実施済
Ndunguidi	20	74	給水	1 箇所	7,000 ドル	需要量: 人口 74 人 x 8 リットル/人日=592 リットル (1 本) 供給量: 浅井戸深さ 7m で常時 1000 リットル供給可能 (水位 0.6m 分) 整備費: 1 本 7,000 ドル	
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	PP で 苗木配布済
			保健アニメーター	1 人	100 ドル	1 人/50 世帯	
			改良かまど	10 世帯	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 2 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	実施済
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費 (編み棒など)	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費 (交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル)	実施済

Nkondo	46	220	給水	2 箇所	14,000 ドル	需要量：人口 220 人 x 8 リットル/人日=1760 リットル 供給量：浅井戸深さ 7m で常時 1000 リットル供給可能（水位 0.6m 分） 整備費：1 本 7000 ドル	
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	PP で苗木配布済
			改良かまど	23 世帯	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 8 箇所
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費（編み棒など）	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費（交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル）	実施済
Kinanga	68	408	給水	2 箇所	14,000 ドル	需要量：人口 408 人 x 8 リットル/人日=3264 リットル 供給量：浅井戸深さ 7m で常時 1000 リットル供給可能（水位 0.6m 分） 整備費：1 本 7000 ドル	既存の井戸を 1 箇所利用し、村内で 3 箇所とする
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	
			保健アニメーター	1 人	100 ドル	1 人/50 世帯	
			改良かまど	34 世帯	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 10 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費（編み棒など）	実施済
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費（交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル）	実施済
Kisiamba	27	151	給水	2 本	14,000 ドル	需要量：人口 151 人 x 8 リットル/人日=1208 リットル 供給量：浅井戸深さ 7m で常時 1000 リットル供給可能（水位 0.6m 分） 整備費：1 本 7000 ドル	PP で 1 本整備済
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	
			保健アニメーター	1 人	100 ドル	1 人/50 世帯	
			改良かまど	14 箇所	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 1 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費（編み棒など）	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費（交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル）	実施済
Mbanza Ndamba	91	494	給水	4 箇所	28,000 ドル	需要量：人口 494 人 x 8 リットル/人日=3952 リットル 供給量：浅井戸深さ 7m で常時 1000 リットル供給可能（水位 0.6m 分）、整備費 1 本 7000 ドル	
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	
			保健アニメーター	2 人	200 ドル	91 世帯/50 世帯=1.8≒2 人	
			改良かまど	46 箇所	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 4 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	実施済
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費（編み棒など）	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費（交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル）	実施済
Kilueka	91	455	給水	1 箇所	7,000 ドル	需要量：人口の 1/4 はアンゴラへ帰還と想定すると 113 人 x 8 リットル/人日=910 リットル（1 本） 供給量：浅井戸深さ 7m で常時 1000 リットル供給可能（水位 0.6m 分） 整備費：1 本 7000 ドル	
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	
			保健アニメーター	2 人	200 ドル	91 世帯/50 世帯=1.8≒2 人	
			改良かまど	46 箇所	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 1 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	
			手工芸	1 式	100 ドル	資材費（編み棒など）	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費（交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル）	実施済

Kilueka Site	230	1,385	給水			既存の井戸を利用	
			植林	1 箇所	100 ドル	苗木 50 本 x 2 ドル	
			保健アニメーター	2 人	200 ドル	世帯の半数がアンゴラへ帰還すると想定。115 世帯/50 世帯 = 2.3 ≈ 2 人	
			改良かまど	115 箇所	—	現地入手可能材料を使用。	PP 後 1 箇所
			識字教育	1 式	100 ドル	教本および黒板	実施済
			手芸	1 式	100 ドル	資材費 (編み棒など)	
			余暇満喫	1 式	20 ドル	大会経費 (交通費 8 ドル, 飲食代 12 ドル)	実施済
合計	765	4,117	給水	・ 16 式	112,000 ドル	対象村および事業量 ・ Ndembo : 1 式 ・ Wene : 2 式 (1 式は実施済) ・ Ndunguidi : 1 式 ・ Nkondo : 2 式 (1 式は実施済) ・ Kinanga : 3 式 ・ Kisiama : 2 式 (1 式は実施済) ・ Mbanza Ndamba : 4 式 ・ Kilueka : 1 式	
			植林	・ 10 式	1,000 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana : 1 式 ・ Ndembo : 1 式 (実施済) ・ Wene : 1 式 ・ Ndunguidi : 1 式 (実施済) ・ Nkondo : 1 式 (実施済) ・ Kinanga : 1 式 ・ Kisiama : 1 式 ・ Mbanza Ndamba : 1 式 ・ Kilueka : 1 式 ・ Kilueka Site : 1 式	
			保健アニメーター	14 人	1,400 ドル	対象村および事業費 ・ Kimwana : 1 人 (実施済) ・ Ndembo : 1 人 (実施済) ・ Wene : 2 人 (1 人実施済) ・ Ndunguidi : 1 人 (実施済) ・ Nkondo : 1 人 (実施済) ・ Kinanga : 1 人 (実施済) ・ Kisiama : 1 人 (実施済) ・ Mbanza Ndamba : 2 人 (1 人実施済) ・ Kilueka : 2 人 (1 人実施済) ・ Kilueka Site : 2 人 (1 人実施済)	
			改良かまど	・ 384 世帯	—	対象村および事業量 ・ Kimwana : 22 世帯 (2 世帯実施済) ・ Ndembo : 14 世帯 ・ Wene : 60 世帯 (1 世帯実施済) ・ Ndunguidi : 10 世帯 (2 世帯実施済) ・ Nkondo : 23 世帯 (8 世帯実施済) ・ Kinanga : 34 世帯 (10 世帯実施済) ・ Kisiama : 14 世帯 (1 世帯実施済) ・ Mbanza Ndamba : 46 世帯 (4 世帯実施済) ・ Kilueka : 46 世帯 (1 世帯実施済) ・ Kilueka Site : 115 世帯	

		識字教育	・ 10 式	1,000 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana : 1 式 ・ Ndembo : 1 式 ・ Wene : 1 式 ・ Ndunguidi : 1 式 (実施済) ・ Nkondo : 1 式 ・ Kinanga : 1 式 ・ Kisiama : 1 式 ・ Mbanza Ndamba : 1 式 (実施済) ・ Kilueka : 1 式 ・ Kilueka Site : 1 式 (実施済)	
		手工芸	・ 10 式	1,000 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana : 1 式 ・ Ndembo : 1 式 ・ Wene : 1 式 ・ Ndunguidi : 1 式 ・ Nkondo : 1 式 ・ Kinanga : 1 式 (実施済) ・ Kisiama : 1 式 ・ Mbanza Ndamba : 1 式 ・ Kilueka : 1 式 ・ Kilueka Site : 1 式	
		余暇満喫	・ 10 式	200 ドル	対象村および事業量 ・ Kimwana : 1 式 (実施済) ・ Ndembo : 1 式 (実施済) ・ Wene : 1 式 (実施済) ・ Ndunguidi : 1 式 (実施済) ・ Nkondo : 1 式 (実施済) ・ Kinanga : 1 式 (実施済) ・ Kisiama : 1 式 (実施済) ・ Mbanza Ndamba : 1 式 (実施済) ・ Kilueka : 1 式 (実施済) ・ Kilueka Site : 1 式 (実施済)	

(2) ゾーン毎に実施するプロジェクト

ゾーンで実施されるプロジェクトは、公共施設改善分野に含まれる保健医療環境改善プロジェクト、教育環境改善プロジェクトである。

保健医療環境改善プロジェクトについては、5年後に看護師が各ゾーンに定着し、疾患が減少すること、教育環境改善プロジェクトについては、教員が定着し、教育が継続して実施されることが目標となる。以下に、事業規模および投入を示す。

①保健医療環境改善プロジェクト

ゾーン	現利用状況	事業規模 (目標値)	合計投入額	各村投入額	
ゾーン 4	Kimpese の病院を利用	なし	なし (今後も Kimpese の病院を利用)	Kimwana	—
				Ndembo	—
ゾーン 5	Kinanga のヘルス・センターを利用	1 箇所	200 ドル (ペンキ等)	Wene	40 ドル (5 村で負担)
				Ndunguidi	40 ドル (5 村で負担)
				Nkondo	40 ドル (5 村で負担)
				Kinanga	40 ドル (5 村で負担)
ゾーン 6	Kilueka のヘルス・センターを利用	1 箇所	210 ドル (ペンキ等)	Kisiama	40 ドル (5 村で負担)
				Mbanza Ndamba	70 ドル (3 村で負担)
				Kilueka	70 ドル (3 村で負担)
				Kilueka Site	70 ドル (3 村で負担)

②教育環境改善プロジェクト：教員が定着し、教育が継続して実施される。

ゾーン	現利用状況	事業規模 (目標値)	合計投入額	各村投入額	
ゾーン 4	Kimpese の学校を利用	なし	— (今後も Kimpese の学校 を利用)	Kimwana	—
ゾーン 5	Kinanga 近郊約 1km にあ る Betelemi の学校を利用	1 箇所	200 ドル (ペンキ等)	Ndembo	—
				Wene	40 ドル (5 村で負担)
				Ndunguidi	40 ドル (5 村で負担)
				Nkondo	40 ドル (5 村で負担)
				Kinanga	40 ドル (5 村で負担)
ゾーン 6	Mbanza Ndamba の学校 および Kilueka Site の学 校を利用	1 箇所	210 ドル (ペンキ等)	Kisiamana	40 ドル (5 村で負担)
				Mbanza Ndamba	70 ドル (3 村で負担)
				Kilueka	70 ドル (3 村で負担)
				Kilueka Site	70 ドル (3 村で負担)

(3) ルートで実施するプロジェクト

ルートで実施するプログラムのうち、コミュニティ道路維持管理プロジェクトは、コミュニ
ティ道路を維持し、沿線コミュニティの開発に不可欠なものであり、開発計画の事業項目に必ず含
めるものとする。

ルート	プロジェクト	事業規模 (目標値)	活動
Kilueka ルート	コミュニティ道路維持 管理プロジェクト	・ Kimpese—Kilueka 間 の車での所要時間 が変わらない(約 40 分)。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルクンガ渓谷開発委員会による維持管理体制の整備 が整備される ・ 各村で毎週サロンゴにより、割り当ての区間(1.8km/ 村)の清掃・簡易な修復を実施する。 ・ 各村の維持管理者により、道路の維持管理が実施さ れる。
	農産物共同集出荷場プ ロジェクト	・ 4 箇所設置 (Agrisud により 1 箇所 (Nkondo) 設置済み)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共同集出荷場を草の根無償プロジェクトにより 3 箇 所 (Mbanza Ndamba、Ndunguidi、Kimwana) に設置、 Agrisud により 1 箇所設置 (Nkondo) する。 ・ ルクンガ渓谷開発委員会の主導の下、農産物を共同 集出荷する。

7.3.4 ルートおよび各村におけるコミュニティ開発計画

Kilueka ルートの対象村 10 村のコミュニティ開発計画は、前述の事業規模と水準から、下図に
示すとおりルート全体のコミュニティ開発計画とゾーンのコミュニティ開発計画を含む村コミュ
ニティ開発計画からなる。ルートコミュニティ開発計画は、PDM として整理し表 7.2 に示す。ま
た、村毎の開発計画は表 7.3 に示すとおりである。

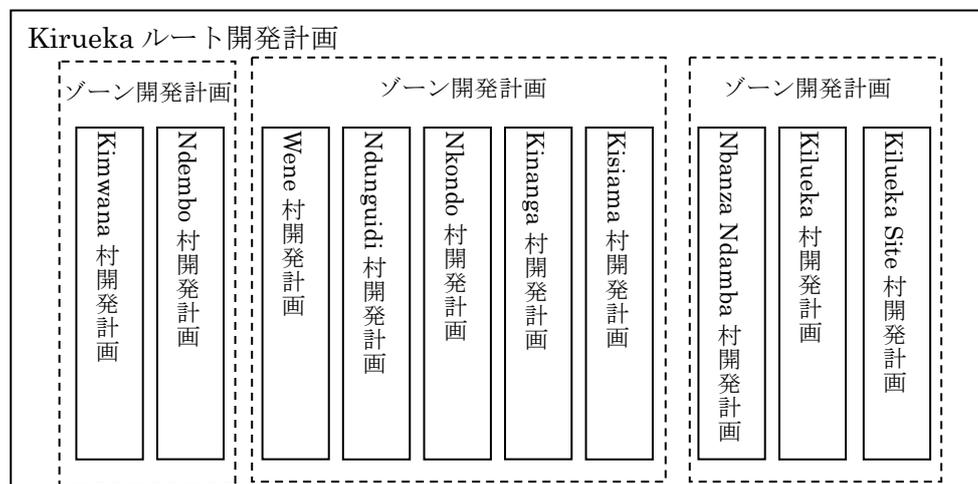


表 7.2 PDM Kilueka ルート開発計画

表 Kilueka ルート開発計画 (Kilueka ルート全体)

PDM-0 2009年12月

対象地域: Kilueka ルート

対象期間: 2010年～2014年(本調査期間を含む)

ターゲットグループ: Kilueka ルート沿い住民および州内の DECO・DVDA 職員、4,100人

プロジェクトの要約		主要な指標	外部条件
上位目標	コミュニティの開発の便益が対象地域において配当される。	住民主導によりコミュニティ開発計画が普及する。	
プロジェクト目標	コミュニティの A) 生計向上、B) 自然・生活環境改善、C) 組織能力向上によって、紛争に対する耐性が強化される。 州内の DECO・DVDA のコミュニティに対する支援とモニタリング能力が向上する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生計向上により、対象地域内の平均収入が2割向上する。 ・自然生活環境改善により、下記項目において、コミュニティでの生活に満足する。 <ol style="list-style-type: none"> ①全ての住民が飲料水へのアクセス可能となる。 ②自然環境に関する保全意識が向上し、無秩序な火入れが無くなる。 ③教員が定着し、教育の継続的に実施される。 ④看護師が定着し、継続的に医療サービスを受けられる。予防に関する知識を○○%の住民が理解する。 ・組織能力向上により、プロジェクトが継続される。 ・C/Pの能力が向上しコミュニティへの支援が継続される。 	
成果	<p>【村開発計画で達成する成果】</p> <p>A-1) 農産物の生産量が増加する。</p> <p>A-2) 栽培技術の向上、栽培農産物の多様化により、収入が増加する。</p> <p>A-3) 水稲栽培面積が増加し、コメ生産量が増加する。</p> <p>A-4) 畜産・養殖・養蜂の生産量が増加する。</p> <p>A-5) 非農業生産活動により、農外収入が増加する。</p> <p>B-1) 住民の生計向上により、栄養改善につながる。</p> <p>B-2) 森林が保全の重要性が認識され、森林が保全されるとともに火入れも少なくなる。</p> <p>B-3) 井戸が整備され、安全な水へアクセスできる人数が増加する。</p> <p>B-4) 保健アニメーターの活動により、疾病の罹患率が減少する。</p> <p>B-5) 改良かまどが普及し、人々の薪収集や鍋洗浄の労力が軽減される。</p> <p>B-6) 識字教育の実施により、識字率が向上する。</p> <p>C-1) グループ活動が活発となり、組織能力が向上する。</p> <p>C-2) コミュニティ圃場が運営され、組織活動の財政基盤が整う。</p> <p>【ゾーン開発計画で達成する成果】</p> <p>B-7) 住民組織によりヘルス・センターの機能が維持される。</p> <p>B-8) 住民組織により学校の機能が維持される。</p>	<p>牛耕面積：1世帯当たりの雨期作の耕作面積が平均0.4ha増加</p> <p>農産物販売量：野菜の販売時期 水稲栽培面積：2ha 豚販売数：40匹(グループ当たり) 漁獲量： ハチミツ生産量：150l/グループ 加工品生産量： 農産物運搬回数： 栄養改善： 植林面積 井戸整備数 マラリア、下痢の罹患患者数 改良かまど数 授業開催日数</p> <p>プロジェクト参加者数の推移 圃場からの収益金</p> <p>ヘルス・センター改修数 学校改修数</p>	<p>対象地域の人々が継続して活動できる環境がある。</p> <p>アンゴラ人の送還がされない。 アンゴラに居住するコンゴ民人の流入がない。</p> <p>大規模な自然災害が発生しない。</p> <p>コミュニティ開発振興の政策が変わらない。</p>

プロジェクトの要約	主要な指標	外部条件
<p>【ルート開発計画で達成する成果】</p> <p>A-6) 農産物の共同集出荷により、収入が増加する。</p> <p>C-3) 住民組織による道路維持管理が継続され、道路の機能が維持される。</p>	<p>貯蔵庫利用者数</p> <p>維持管理参加者数</p> <p>Kimpese-Kilueka 間の所要時間</p>	
<p>活動</p> <p>【村開発計画での活動】</p> <p>A-1-1) 牛耕プロジェクトにより栽培面積を拡大する。</p> <p>A-1-2) 新品種導入プロジェクトにより、栽培技術を向上し、優良品種を導入する。</p> <p>A-2-1) 新品種導入プロジェクトにより、作目の多様化を図る。</p> <p>A-3-1) 稲作振興プロジェクトにより、水稻栽培面積が増加し、コメ生産量を増加させる。</p> <p>A-4-1) 畜産プロジェクトにより、豚飼養頭数を増加させる。</p> <p>A-4-2) 養殖プロジェクトにより、養殖魚の生産量を増加させる。</p> <p>A-4-3) 養蜂プロジェクトにより、ハチミツ生産量を増加させる。</p> <p>(A-5-1) 収穫後処理・農産物加工プロジェクトにより加工品が作られる。</p> <p>(A-5-2) 生産物運搬プロジェクトにより生産物の運搬を行う。</p> <p>B-1-1) A-1-1)～A-5-2)の活動を実施する。</p> <p>B-2-1) 森林保全・植林プロジェクトにより果樹、樹木、モリンガの苗木の作り方を理解し、作られた苗木の植林が行われる。</p> <p>B-3-1) 給水施設整備維持管理プロジェクトにより、井戸を整備する。</p> <p>B-3-2) 給水施設整備維持管理プロジェクトにより、受益者による維持管理活動を強化する。</p> <p>B-4-1) 保健医療環境改善プロジェクトにより、保健アニメーターの研修を実施する。</p> <p>B-5-1) 改良かまどプロジェクトにより、改良かまどを普及する。</p> <p>B-6-1) 識字教育プロジェクトにより、識字教育を実施する。</p> <p>C-1-1) A-1-1)～B-6-1)の活動を実施する。</p> <p>C-1-2) 小規模手工芸プロジェクトにより、グループでの手工芸品が作られる。</p> <p>C-1-3) 余暇満喫プロジェクトにより、スポーツ大会が開催される。</p> <p>C-2-1) 新品種導入・土壌改良プロジェクトにより、コミュニティ圃場を運営する。</p> <p>【ゾーン開発計画での活動】</p> <p>B-7-1) 保健医療環境改善プロジェクトにより、ヘルス・センターを維持管理する。</p> <p>B-8-1) 教育環境改善プロジェクトにより、学校を維持管理する。</p> <p>【ルート開発計画での活動】</p> <p>A-6-1) 農産物共同集出荷場草の根無償プロジェクトにより、農産物を共同集出荷する。</p> <p>C-3-1) 住民組織強化プログラムにより、住民組織による道路維持管理が継続される。</p>	<p>投入</p> <p>人材</p> <p>州内(州・県・テリトワール・セクター)の DECO・DVDA、SENATRA、SNHR、SNCOOP の担当者、INERA の稲作技術者および保健省担当者</p> <p>資金</p> <p>事業費</p> <p>牛耕：17,000 ドル (10 セット、内 4 セットは PP で実施済)</p> <p>新品種導入：7,680 ドル (384 世帯×20 ドル、種子代)</p> <p>稲作振興:6,770 ドル (1 箇所 50 ドル、種子代)</p> <p>畜産：8,860 ドル (1 箇所 886 ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)</p> <p>養殖：100 ドル (1 箇所 50 ドル、稚魚)</p> <p>養蜂：2,430 ドル (1 箇所 810 ドル、蜜箱など)</p> <p>生産物運搬：250 ドル (PP で実施済)</p> <p>植林：1,000 ドル (1 箇所 100 ドル、苗木)</p> <p>給水施設：105,000 ドル (1 箇所 7,000、PP で 2 箇所整備済)</p> <p>保健アニメーター：1,400 ドル (1 箇所・1 人 100 ドル、紙芝居、マリア検査キット)</p> <p>改良かまど：現地入手可能材料を使用</p> <p>識字教育：1,000 ドル (1 箇所 100 ドル、教本および黒板)</p> <p>手工芸：1,000 ドル (1 箇所 100 ドル、編み棒など、PP で 1 箇所実施済)</p> <p>余暇満喫：200 ドル</p> <p>(1 村当たり交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル)</p> <p>維持管理費</p> <p>保健施設：410 ドル(1 箇所当たり 200～210 ドル/5 年、ペンキ等)</p> <p>学校施設：410 ドル(1 箇所当たり 200～210 ドル/5 年、ペンキ等)</p> <p>コミュニティ道路維持管理費：5,040 ドル/年</p>	<p>前提条件</p> <p>大規模な紛争が発生しない。</p> <p>プロジェクトを実施したいという住民意向がある。</p> <p>対象地域の開発に対し、政府が積極的である。</p>

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 1/10) Kimwana のコミュニティ開発計画

対象期間	2010 年～2014 年				
ターゲットグループ	Kimwana の住民(172 人、44 世帯:2008 年 9 月時)				
村の特性	Kimpese から近い。豊富な湧水がある。				
ゾーンの特性	小学校、病院とも、Kimpese へ通っている。				
開発目標					
分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備	Kimpese までの車での所要時間	20 分	10 分
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化	活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.36ha 乾期:0.09ha	雨期:0.65ha 乾期:0.11ha
		野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	22 世帯
		稲作振興	栽培面積	0ha	20a (PP 後) 2.0ha (3 年後)
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-
		(生産物運搬)	実施者数	-	-
		共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
	⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年
養蜂		ハチミツ生産量	-	-	
養殖・水産加工		養殖魚数	-	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所
		改良かまど	改良かまどの数	0 箇所	22 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数		
		手工芸	出席者数		
		給水施設・維持管理	給水施設(井戸)	0 箇所	0 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	1 人
		教育施設環境改善	看護師の数(ゾーン)		
		教育施設環境改善	教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者、INERA の稲作技術者

資金

事業費

牛耕: 1,700ドル(1 セット 1,700ドル)

新品種導入: 440ドル(総世帯の半数 22 世帯×20ドル、種子代、16 世帯分導入済)

稲作振興: 3,410ドル(PP で導入済)

畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)

養殖: 50ドル(1 箇所 50ドル、稚魚)

植林: 100ドル(苗木 50 本×2ドル)

保健アニメーター: 100ドル(1 箇所・1 人 100ドル、紙芝居、マラリア検査キット)

改良かまど: 現地入手可能材料を使用

識字教育: 100ドル(1 箇所 100ドル、教本および黒板)

手工芸: 100ドル(編み棒等)

余暇満喫: 20ドル(交通費 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)

・維持管理費

コミュニティ道路維持管理費

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 2/10) Ndembo のコミュニティ開発計画	
対象期間	2010 年～2014 年
ターゲットグループ	Ndembo の住民(130 人、28 世帯:2008 年 9 月時)
村の特性	本調査対象地域で最も古い農民組織があり、改良キャッサバの苗木の栽培と販売等を行っている。村長はコミュニティ開発委員会の副代表である。
ゾーンの特性	小学校、病院とも、Kimpese へ通っている。小学校 1-2 年生に対しては、Ndembo 内で指導している。

開発目標					
分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備	Kimpese までの車での所要時間	40 分	20 分
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化	活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.52ha 乾期:0.12ha	雨期:0.86ha 乾期:0.12ha
		野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	14 世帯
		稲作振興	栽培面積	-	-
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-
		(生産物運搬)	実施者数	-	-
		共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
	⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年
養蜂		ハチミツ生産量	-	-	
養殖・水産加工		養殖魚数	-	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所
		改良かまど	改良かまどの数	2 箇所	14 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数		
		手工芸	出席者数		
		給水施設・維持管理	給水施設(井戸) 病気の罹患率	0 箇所	1 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	2 人
			看護師の数(ゾーン)		
		教育施設環境改善	教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者

資金

事業費

- 牛耕: 1,700ドル(1 セット 1,700ドル、1 セット導入済)
- 新品種導入: 280ドル(総世帯の半数 14 世帯 × 20ドル、種子代、20 世帯分導入済)
- 畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)
- 植林: 100ドル(苗木 50 本 × 2ドル、PP で苗木配布済)
- 給水: 7,000ドル(整備費 1 本 7,000ドル)
- 保健アニメーター: 100ドル(1 箇所・1 人 100ドル、紙芝居、マラリア検査キット)
- 改良かまど: 現地入手可能材料を使用
- 識字教育: 100ドル(1 箇所 100ドル、教本および黒板)
- 手工芸: 100ドル(編み棒等)
- 余暇満喫: 20ドル(交通費 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)

・維持管理費

- コミュニティ道路維持管理費

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 3/10) Wene のコミュニティ開発計画

対象期間	2010 年～2014 年				
ターゲットグループ	Wene の住民(628 人、120 世帯:2008 年 9 月時)				
村の特性	Kilueka ルートのほぼ中央に位置し、人口もやや多く、スポーツ場もある。				
ゾーンの特性	Wene 内に小学校がある。Kinanga にあるヘルス・センターへ通っている。				
開発目標					
分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備	Kimpese までの車での所要時間	80 分	30 分
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化	活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.43ha 乾期:0.18ha	雨期:0.82ha 乾期:0.18ha
		野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	60 世帯
		稲作振興	栽培面積	-	-
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-
		(生産物運搬)	実施者数	-	-
		共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
	⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年
養蜂			ハチミツ生産量	-	
養殖・水産加工			養殖魚数	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所
		改良かまど	改良かまどの数	0 箇所	60 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数		
		手工芸	出席者数		
		給水施設・維持管理	給水施設(井戸) 病気の罹患率	0 箇所	5 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	2 人
			看護師の数(ゾーン)		
		教育施設環境改善	教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者

資金

事業費

- 牛耕: 3,400ドル(2 セット 3,400ドル)
- 新品種導入: 1,200ドル(総世帯の半数 60 世帯×20ドル、種子代、23 世帯分導入済)
- 畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)
- 森林: 100ドル(苗木 50 本×2ドル)
- 給水: 35,000(整備費 5 本 35,000ドル、PP で 1 本整備済)
- 保健アニメーター: 200ドル(1 箇所・2 人 200ドル、紙芝居、マラリア検査キット)
- 改良かまど: 現地入手可能材料を使用
- 識字教育: 100ドル(教本および黒板)
- 手工芸: 100ドル(編み棒等)
- 余暇満喫: 大会経費一村 20ドル(交通費 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)

・維持管理費

- 保健施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)
- 学校施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)
- コミュニティ道路維持管理費

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 4/10) Ndunguidi のコミュニティ開発計画	
対象期間	2010 年～2014 年
ターゲットグループ	Ndunguidi の住民(74 人、20 世帯:2008 年 9 月時)
村の特性	バング山の麓に位置し、バング山の上の村落の人々が頻繁に通過する。村長は女性である。
ゾーンの特性	Kinanga にあるヘルス・センター、その先の Betelemi にある小学校へ通っている。

開発目標					
分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備	Kimpese までの車での所要時間	170 分	50 分
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化	活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.46ha 乾期:0.12ha	雨期:0.46ha 乾期:0.12ha
		野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	10 世帯
		稲作振興	栽培面積	-	-
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-
		(生産物運搬)	実施者数	-	-
		共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
	⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年
養蜂		ハチミツ生産量	0ℓ	1 箇所:150ℓ/年	
養殖・水産加工		養殖魚数	-	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所
		改良かまど	改良かまどの数	0 箇所	10 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数		
		手工芸	出席者数		
		給水施設・維持管理	給水施設(井戸)	16 箇所	16 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	2 人
		教育施設環境改善	看護師の数(ゾーン)		
		教育施設環境改善	教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者

資金

事業費

新品種導入: 200ドル(総世帯の半数 10 世帯×20ドル、種子代、5 世帯分導入済)

畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)

養蜂: 810ドル(1 箇所 810ドル、蜜箱や採蜂箱等)

植林: 100ドル(苗木 50 本×2ドル、PP で苗木配布済)

給水: 7,000ドル(整備費 1 本 7,000ドル)

保健アニメーター: 100ドル(1 箇所・1 人 100ドル、紙芝居、マラリア検査キット)

改良かまど: 現地入手可能材料を使用

識字教育: 100ドル(1 箇所 100ドル、教本および黒板)

手工芸: 100ドル(編み棒等)

余暇満喫: 大会経費一村 20ドル(交通費 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)

・維持管理費

保健施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)

学校施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)

コミュニティ道路維持管理費

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 5/10) Nkondo のコミュニティ開発計画

対象期間	2010 年～2014 年				
ターゲットグループ	Nkondo の住民(220 人、46 世帯:2008 年 9 月時)				
村の特性	ルート中央に位置する。共同集出荷場が整備された。村長はコミュニティ開発委員会の代表である。				
ゾーンの特性	Kinanga にあるヘルス・センター、その先の Betelemi にある小学校へ通っている。				
開発目標					
分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備	Kimpese までの車での所要時間	90 分	30 分
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化	活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.46ha 乾期:0.11ha	雨期:0.46ha 乾期:0.11ha
		野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	23 世帯
		稲作振興	栽培面積	-	-
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-
		(生産物運搬)	実施者数	-	-
		共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
	⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年
養蜂		ハチミツ生産量	-	-	
養殖・水産加工		養殖魚数	-	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所
		改良かまど	改良かまどの数	0 箇所	115 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数		
		手工芸	出席者数		
		給水施設・維持管理	給水施設(井戸)	0 箇所	2 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	3 人	1 人
		教育施設環境改善	看護師の数(ゾーン) 教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者

資金

事業費

- 新品種導入: 460ドル(23 世帯×20ドル、種子代、24 世帯分導入済)
- 畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭、PP で導入済)
- 植林: 100ドル(苗木 50 本×2ドル、PP で苗木配布済)
- 給水: 14,000ドル(整備費 2 本 14,000ドル)
- 保健アニメーター: 100ドル(1 箇所・1 人 100ドル、紙芝居、マラリア検査キット)
- 改良かまど: 現地入手可能材料を使用
- 識字教育: 100ドル(1 箇所 100ドル、教本および黒板)
- 手工芸: 100ドル(編み棒等)
- 余暇満喫: 大会経費一村 20ドル(交通費 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)

・維持管理費

- 保健施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)
- 学校施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)
- コミュニティ道路維持管理費

対象期間	2010 年～2014 年
ターゲットグループ	Kinanga の住民(408 人、68 世帯:2008 年 9 月時)
村の特性	大工でもある族長が存在する。牛耕の技術者がいる。先進的な農業組織がある。
ゾーンの特性	Kinanga 村内にヘルス・センターがあり、近郊の約 1.5km 先の Betelemi には小学校があり、いずれも Wene、Ndunguidi、Nkondo、Kisiama の人々と共有している。

開発目標						
分野	プログラム	プロジェクト	指標			
			項目	現況	目標	
(1)必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備	Kimpese までの車の所要時間	95 分	35 分	
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化	活動している住民組織数			
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.45ha 乾期:0.19ha	雨期:0.89ha 乾期:0.19ha	
			野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	34 世帯
			稲作振興	栽培面積	-	-
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-	
			(生産物運搬)	実施者数	-	-
			共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
	⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年	
養蜂			ハチミツ生産量	0ℓ	1 箇所:150ℓ/年	
養殖・水産加工			養殖魚数	-	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所	
			改良かまど	改良かまどの数	0 箇所	34 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数			
			手工芸	出席者数		
			給水施設・維持管理	給水施設(井戸)	1 箇所	3 箇所
病気の罹患率						
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	2 人	
			看護師の数(ゾーン)			
		教育施設環境改善	教員の人数(ゾーン)			

投入

人材: DVDA Songololo の担当者

資金

事業費

- 牛耕: 1,700ドル(1 セット 1,700ドル、2 セットは PP で導入済)
- 新品種導入: 680ドル(総世帯の半数 34 世帯 × 20ドル、種子代、20 世帯分導入済)
- 畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)
- 養蜂: 810ドル(1 箇所 810ドル、蜜箱や採蜂箱等)
- 植林: 100ドル(苗木 50 本 × 2ドル)
- 給水: 14,000ドル(整備費 2 本 14,000ドル)
- 保健アニメーター: 100ドル(1 箇所・1 人 100ドル、紙芝居、マラリア検査キット)
- 改良かまど: 現地入手可能材料を使用
- 識字教育: 100ドル(1 箇所 100ドル、教本および黒板)
- 手工芸: 100ドル(編み棒など、PP で実施済)
- 余暇満喫: 大会経費一村 20ドル(交通費 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)

・維持管理費

- 保健施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)
- 学校施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)
- コミュニティ道路維持管理費

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 7/10) Kishiana のコミュニティ開発計画

対象期間	2010 年～2014 年
ターゲットグループ	Kisiana の住民(151 人、27 世帯:2008 年 9 月時)
村の特性	村開発委員会の書記は大工である。
ゾーンの特性	Kinanga にあるヘルス・センター、その先の Betelemi にある小学校へ通っている。

開発目標

分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備 ②住民組織支援・強化	コミュニティ道路整備 住民組織支援・強化	Kimpese までの車での所要時間	80 分	40 分
			活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.72ha 乾期:0.19ha	雨期:1.13ha 乾期:0.19ha
		野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	14 世帯
		稲作振興	栽培面積	-	2.0 ha (3 年後)
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-
		(生産物運搬)	実施者数	-	-
		共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年	
		養蜂	ハチミツ生産量	-	
		養殖・水産加工	養殖魚数	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所
		改良かまど	改良かまどの数	0 箇所	13 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数		
		手工芸	出席者数		
		給水施設・維持管理	給水施設(井戸)	0 箇所	2 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	2 人
			看護師の数(ゾーン)		
		教育施設環境改善	教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者、INERA の稲作技術者

資金

事業費

- 牛耕: 1700ドル(1セット 1,700ドル)
- 新品種導入: 280ドル(総世帯の半数 14 世帯×20ドル、種子代、20 世帯分導入済)
- 稲作振興: 3,360ドル(1箇所、種子代)
- 畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)
- 植林: 100ドル(苗木 50 本×2ドル)
- 給水: 14,000ドル(整備費 2 本 14,000ドル、PP で 1 本実施済)
- 保健アニメーター: 100ドル(1 箇所・1 人 100ドル、紙芝居、マラリア検査キット)
- 改良かまど: 現地入手可能材料を使用
- 識字教育: 100ドル(1 箇所 100ドル、教本および黒板)
- 手工芸: 100ドル(編み棒等)
- 余暇満喫: 大会経費一村 20ドル(交通費 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)

・維持管理費

- 保健施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)
- 学校施設: 40ドル(1 施設当たり 200ドル/5 村で負担、ペンキ等)
- コミュニティ道路維持管理費

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 8/10) Mbanza Ndamba のコミュニティ開発計画	
対象期間	2010 年～2014 年
ターゲットグループ	Mbanza Ndamba の住民(494 人、91 世帯:2008 年 9 月時)
村の特性	児童の人口が多い。
ゾーンの特性	Mbanza Ndamba の小学校(小 4 まで)および Kilueka Site の小学校へ通っている。ヘルス・センターは Kilueka へ通っている。

開発目標					
分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備 ②住民組織支援・強化	コミュニティ道路整備 住民組織支援・強化	Kimpepe までの車での所要時間	180 分	50 分
			活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕 野菜栽培 稲作振興	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.34ha 乾期:0.29ha	雨期:0.74ha 乾期:0.29ha
			世帯数(端境期出荷)	0 世帯	46 世帯
			栽培面積	-	-
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工) 生産物運搬 共同集出荷	実施者数	-	-
			実施者数	-	-
			集出荷された作物量	-	-
⑤収入源多角化	畜産 養蜂 養殖・水産加工	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年	
		ハチミツ生産量	0ℓ	1 箇所:150ℓ/年	
		養殖魚数	-	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林 改良かまど	植林箇所数	0 箇所	4 箇所
			改良かまどの数	0 箇所	46 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育 手工芸 給水施設・維持管理	出席者数		
			出席者数		
			給水施設(井戸)	1 箇所	1 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	2 人
			看護師の数(ゾーン)		
		教育施設環境改善	教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者

資金

事業費

- 牛耕: 3,400ドル(2 セット 3,400ドル、1 セット導入済)
- 新品種導入: 920ドル(総世帯の半数 46 世帯×20ドル、種子代、24 世帯分導入済)
- 畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)
- 養蜂: 810ドル(1 箇所 810ドル、蜜箱や採蜂箱等)
- 養殖: 50ドル(1 箇所 50ドル、稚魚)
- 植林: 100ドル(苗木 50 本×2ドル)
- 給水: 28,000ドル(整備費 4 本 28,000ドル)
- 保健アニメーター: 200ドル(1 箇所・2 人 200ドル、紙芝居、マラリア検査キット)
- 改良かまど: 現地入手可能材料を使用
- 識字教育: 100ドル(1 箇所 100ドル、教本および黒板)
- 手工芸: 100ドル(編み棒等)
- 余暇満喫: 大会経費一村 20ドル(交通費: 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)
- ・維持管理費
 - 保健施設: 70ドル(1 施設当たり 210ドル/3 村で負担、ペンキ等)
 - 学校施設: 70ドル(1 施設当たり 210ドル/3 村で負担、ペンキ等)
 - コミュニティ道路維持管理費

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 9/10) Kilueka のコミュニティ開発計画

対象期間	2010 年～2014 年				
ターゲットグループ	Kilueka の住民(455 人、91 世帯:2008 年 9 月時)				
村の特性	Kilueka ルートの終点、この先にバング山に登る道が続く。				
ゾーンの特性	学校は Kilueka Site まで通う。ヘルスセンターがある				
開発目標					
分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備	Kimpese までの車の所要時間	180 分	50 分
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化	活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.58ha 乾期:0.27ha	雨期:0.95ha 乾期:0.27ha
		野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	46 世帯
		稲作振興	栽培面積	-	-
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-
		(生産物運搬)	実施者数	-	-
		共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
	⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年
養蜂		ハチミツ生産量	-	-	
養殖・水産加工		養殖魚数	-	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所
		改良かまど	改良かまどの数	0 箇所	46 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数		
		手工芸	出席者数		
		給水施設・維持管理	給水施設(井戸)	0 箇所	1 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	2 人
		教育施設環境改善	看護師の数(ゾーン)		
		教育施設環境改善	教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者

事業費

牛耕: 3,400ドル(2 セット 3,400ドル、1 セット導入済)
 新品種導入: 920ドル(総世帯の半数 46 世帯 × 20ドル、種子代、24 世帯分導入済)
 畜産: 886ドル(1 箇所 886ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)
 植林: 100ドル(苗木 50 本 × 2ドル)
 給水: 28,000ドル(整備費 4 本 28,000ドル)
 保健アニメーター: 200ドル(1 箇所・2 人 200ドル、紙芝居、マラリア検査キット)
 改良かまど: 現地入手可能材料を使用
 識字教育: 100ドル(1 箇所 100ドル、教本および黒板)
 手工芸: 100ドル(編み棒等)
 余暇満喫: 大会経費一村 20ドル(交通費: 8ドル、飲食代 12ドル、実施済)

維持管理費

保健施設: 70ドル(1 施設当たり 210ドル/3 村で負担、ペンキ等)
 学校施設: 70ドル(1 施設当たり 210ドル/3 村で負担、ペンキ等)
 コミュニティ道路維持管理費

表 7.3 村の開発計画 (Kilueka ルート 10/10) Kilueka Site のコミュニティ開発計画

対象期間	2010 年～2014 年				
ターゲットグループ	Kilueka Site の住民 (1,385 人、230 世帯:2008 年 9 月時)				
村の特性	旧アンゴラ難民のキャンプ				
ゾーンの特性	Kilueka Site の小学校へ通っている。ヘルス・センターは Kilueka へ通っている。				
開発目標					
分野	プログラム	プロジェクト	指標		
			項目	現況	目標
(1)必須	①コミュニティ道路整備	コミュニティ道路整備	Kimpese までの車での所要時間	200 分	60 分
	②住民組織支援・強化	住民組織支援・強化	活動している住民組織数		
(2)生計向上	③農業生産性向上	牛耕	一人あたり平均耕作面積	雨期:0.20ha 乾期:0.13ha	雨期:0.20ha 乾期:0.13ha
		野菜栽培	世帯数(端境期出荷)	0 世帯	58 世帯
		稲作振興	栽培面積	-	-
	④生産物付加価値向上	(収穫後処理・農産加工)	実施者数	-	-
		(生産物運搬)	実施者数	-	-
		共同集出荷	集出荷された作物量	-	-
	⑤収入源多角化	畜産	飼育豚の頭数	なし	1 箇所:オス 1 頭、メス 3 頭、子豚 60 頭/年
養蜂		ハチミツ生産量	-	-	
養殖・水産加工		養殖魚数	-	-	
(3)生活改善	⑥自然環境改善	植林	植林箇所数	0 箇所	1 箇所
		改良かまど	改良かまどの数	0 箇所	115 箇所
	⑦生活環境改善	識字教育	出席者数		
		手工芸	出席者数		
		給水施設・維持管理	給水施設(井戸)	16 箇所	16 箇所
(4)公共施設改善	⑧公共施設整備	保健医療環境改善	保健アニメーターの数	0 人	2 人
		教育施設環境改善	看護師の数(ゾーン)		
			教員の人数(ゾーン)		

投入

人材: DVDA Songololo の担当者

資金

事業費

- ・新品種導入: 1,160 ドル(世帯の半数がアンゴラへ帰還すると想定し、現在の総世帯数の 1/4、58 世帯×20 ドル、種子代、20 世帯分導入済)
- ・畜産: 886 ドル(1 箇所 886 ドル、オス 1 頭、メス 3 頭)
- ・植林: 100 ドル(苗木 50 本×2 ドル)
- ・保健アニメーター: 200 ドル(1 箇所・2 人 200 ドル、紙芝居、マラリア検査キット)
- ・改良かまど: 現地入手可能材料を使用
- ・識字教育: 100 ドル(1 箇所 100 ドル、教本および黒板)
- ・手工芸: 100 ドル(編み棒等)
- ・余暇満喫: 大会経費一村 20 ドル(交通費 8 ドル、飲食代 12 ドル、実施済)
- ・維持管理費
 - 保健施設: 70 ドル(1 施設当たり 210 ドル/3 村で負担、ペンキ等)
 - 学校施設: 70 ドル(1 施設当たり 210 ドル/3 村で負担、ペンキ等)
 - コミュニティ道路維持管理費

7.3.5 活動計画

当開発計画は、図 7.10 に示すように短期（3 年間）は住民主導型コミュニティ開発計画の基礎を作る期間、中期（短期後の 2 年間）は対象地域内に波及する期間とし、計 5 年間の計画とした。

バ・コンゴ州カタラクト県コミュニティ再生支援調査 コミュニティ開発計画 短・中期計画

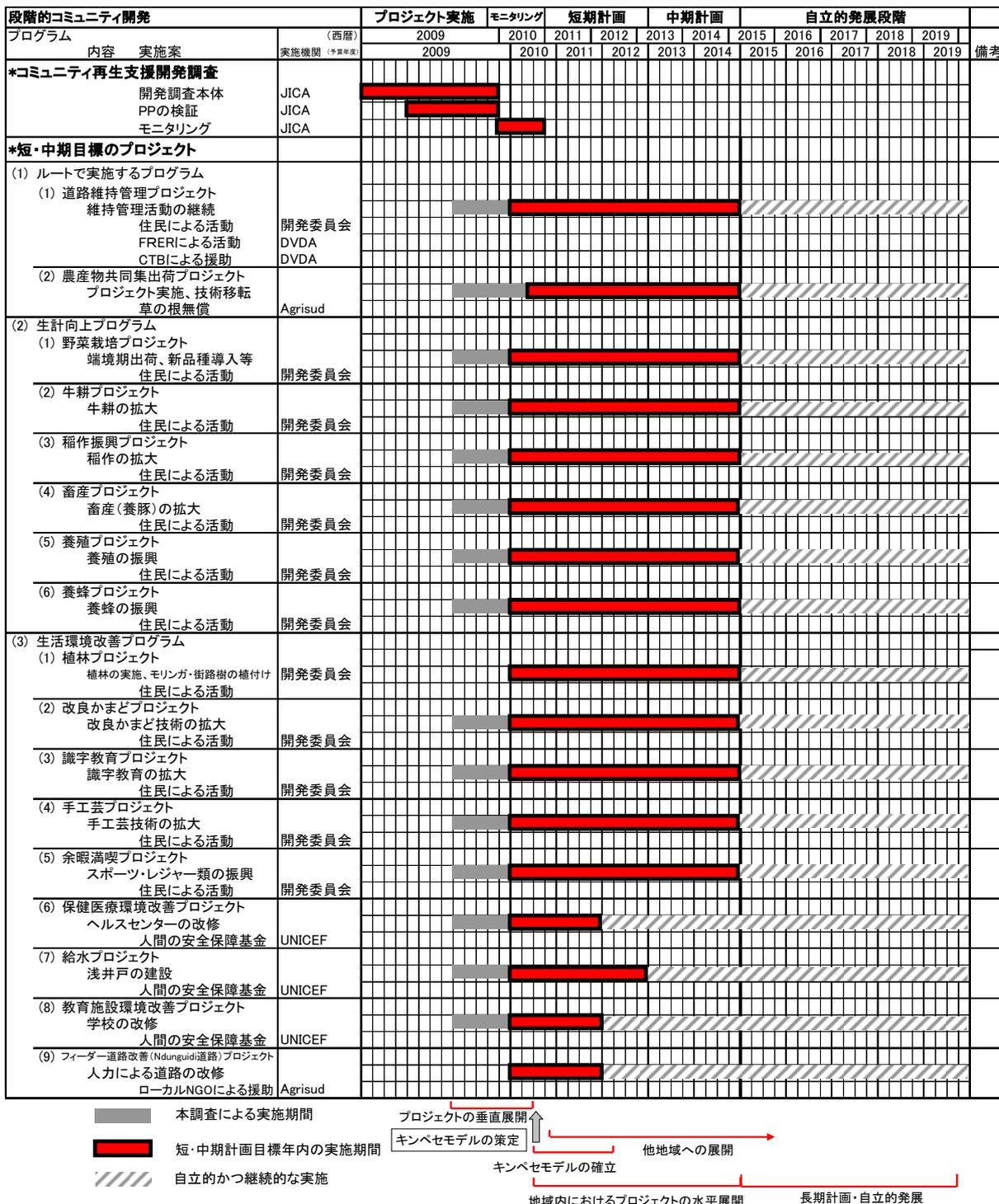


図 7.10 コミュニティ開発計画（短・中期計画）

7.3.6 プロジェクト毎の便益

各プロジェクトの便益算出に当たって、事業量は「7.3.3 事業規模と水準の設定 (3) ルートで実施するプロジェクト」で算出された事業内容の通りとし、生計向上に係る便益は第6章で算出した個々のPPに基づいた。各プロジェクトの便益は、下表に示すとおりである。

各プロジェクトの便益

プロジェクト	概要	投入量 (ドル)	増加便益 /年 (ドル)	単位当りの 増加便益 (ドル)
生計向上に係るプロジェクト				
牛耕：	<ul style="list-style-type: none"> 7村、469世帯を対象とする。 牛耕の導入によって、一世帯当たりの雨期の平均耕地面積を、0.5ha から二割程度増加させる。 なお、牛一対当たりの耕作面積は、一日当たり0.25haとし、雨期期間中の実労働期間4ヶ月での年間耕作面積を、21.6haとする。 	17,000	19,500	1,950/一対当たり
新品種導入 (野菜栽培)：	<ul style="list-style-type: none"> 10村の世帯の内、327世帯を対象とする。 導入技術(高床式の苗床)による販売時期の早期化(1ヶ月から2ヶ月程度)による便益である。 早期の播種を行うための種子代を確保するために、投入量として種子代を計上している。 導入技術では、さらにコンポストによる肥料の購入量減、マルチングによる灌漑回数削減が図られる。 なお、一世帯あたりの乾期の栽培面積は、対象地域の平均値である1,500m²とした。 	7,660	270,398	706/1500m ²
稲作振興：	<ul style="list-style-type: none"> 稲作は、特に雨期に利用されていない内陸性低平地の活用を可能とする。 ここでは、対象村は2村とする。 投入の種籾は、既にPPで投入しており、これを活用して栽培面積の拡大が可能である。 増加便益は2年目以降の便益を示す。初年度は、水田造成に労働力が必要であり、労働力を人件費として計上すると便益はマイナス671ドル/2haである。ただし次年度以降は造成済みのため、扱い土量はほとんど無くなる。 	50	7,058	3,529/2ha
収穫後処理・農産加工：	<ul style="list-style-type: none"> 収穫後処理・農産物加工に関しては、村で得られる農産物、商品としたときの必要経費(ビン代、ラベル代等)などを考慮すると、販売を目的とする製品の製造は難しい。 したがって、村人が購入している加工品の中から、作成するものを選ぶことが重要である。調査の結果では、農産加工品としては、トマトの水煮が挙げられる。 自家消費に限るための、ここでは便益は算出しない。 	-	-	-

プロジェクト	概要	投入量 (ドル)	増加便益 /年 (ドル)	単位当りの 増加便益 (ドル)
生産物運搬：	<ul style="list-style-type: none"> 牛ひき用のリヤカーを利用する場合の便益を算出した。 対象地域では、牛耕は行われておらず、牛ひき用のリヤカーもない。牛耕は主に雨期作の耕作に用いられるものであり、換金作物である野菜の収穫時期には耕作作業は行わない。したがって、牛耕の普及とともに牛ひき用のリヤカーも普及することが期待される。 	400	71	71/ 1セット
畜産：	<ul style="list-style-type: none"> 初期に投入する豚は、オス1頭、メス3頭を基本とするが、豚舎の整備、飼料の購入が難しい場合は、オス1頭、メス1頭から始めることが望ましい。 また、豚舎のうち、壁や屋根は現地入手可能な材料を利用するが、床については十分な強度を得るためにコンクリートを利用することとする。 初年度の投入量が便益を上回るが、2年次以降は利益を得ることができる。 	2,000	1,790	179
養殖：	<ul style="list-style-type: none"> 自家消費用の養殖を目的としているため、ここでは便益を算出しない。 養殖池の整備は、適地選択の後、人力土工での掘削が主な作業となり、稚魚以外には大きな投入は無い。 	150	-	-
養蜂：	<ul style="list-style-type: none"> 蜜箱や対蜂防護服などを計上しているが、蜂は購入せず現地で採取できるものとして算出している。 初年度の投入量が便益を上回るが、3年次以降利益を得ることができる。 	2,430	1,194	398
共同集出荷(貯蔵庫)：	<ul style="list-style-type: none"> 共同集出荷は、貯蔵庫に仮置きし、価格が高い時期に販売することにより便益が得られる。 貯蔵庫の運営維持管理のために、1sacの貯蔵代金を2,000Fcとしている。 	-	1,355/ 1500m ²	1,355/ 1500m ²
生活環境改善に係るプロジェクト(生活環境の改善に寄与するものであり、便益の算出はしない)				
余暇満喫	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ大会を通じて、他村との交流を図るものである。 他村との交流による情報の交換や、村単位では実施が難しい州やテリトアールへの組織としての登録を行うためには、対象地域全体が参加するイベントを開催することも重要である。 	200/1回	-	-
植林	<ul style="list-style-type: none"> 短期的な便益は発現しないが、植林による住環境の改善、また植林を通じての既存の樹木の保存や、火入れに対す啓発活動を期待する。 保全のための植林は、種子から苗木を作ることとし、果樹については、苗木の導入を実施する。 ただし、果樹については、維持管理を考慮して一回の植林面積を最大 2,500m²とする。 	600	-	-

プロジェクト	概要	投入量 (ドル)	増加便益 ／年 (ドル)	単位当りの 増加便益 (ドル)
改良かまど	<ul style="list-style-type: none"> PP で紹介した改良かまどは、現地で入手可能な粘土およびレンガを用いるもので、作り方の指導以外の投入はない。 改良かまどによって、薪の量の削減が図られる。 	-	-	-
識字教育	<ul style="list-style-type: none"> 識字教育に対するニーズは非常に高いが、継続的に実施するためには、教員および生徒の双方が運営に関して合意する必要がある。 すなわち、教員に対する謝礼の額、授業の実施予定をあらかじめ双方で話し合うことが必要である。 	800	-	-
手工芸	<ul style="list-style-type: none"> PP では、ビニール袋を活用した、手提げや帽子などを作成した。 特に女性が村で生活する上で、グループを作って情報の交換をしながら作業する一つの手段として手工芸は有効である。 	100	-	-
公共施設の維持管理に係るプロジェクト				
給水施設	<ul style="list-style-type: none"> 村人の主な疾患の一つである、下痢の罹患率を低減させる。 そのため、河川水などの表流水を飲用としている村を優先して給水施設を整備する必要がある。 「コ」国では、ハンドポンプの本体および部品の入手が容易ではないため、ツルベ式の井戸形式が望ましい。 また、ツルベ式にするために、井戸の深さを7m程度として、適地を探す必要がある。 実施に当たっては、ツルベ式でも維持管理が必要となるので、水利費や井戸使用に当たっての規約作成を、井戸整備前に明確にする。 	35,000	-	-
保健施設	<ul style="list-style-type: none"> 保健施設の維持管理の中で住民が主体となり実施できる屋根の補修や壁のペイントを行うことによって、当該施設を良好な状態に長期間保つことが可能である。 	400	-	-
教育施設	<ul style="list-style-type: none"> 保健施設同様に教育施設の維持管理の中で住民が主体となり実施できる屋根の補修や壁のペイントを行うことによって、当該施設を良好な状態に長期間保つことが可能である。 	600	-	-
コミュニティ道路維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 主要産物である農産物の運搬は、道路の状態を良好に保つことによって、1)運搬時間の短縮、2)トマトなどの荷傷み防止、が図られる。 また、生活道路としても利用されていることから、1)日用品の町での購入、2)病気や怪我の時の搬送等に、費やす時間を削減される。 主に土舗装であるため、雨水による被害を受けやすく、道路の排水機能を維持するための維持管理が必要である。 	5,040	-	-